昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和52年12月15日発行（毎月1回15日発行第9巻第12号）

# バドミントン界 12

日本バドミントン協会　The Badminton World No.98 1977



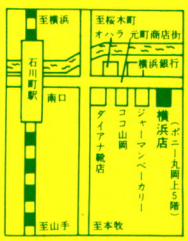
# ラケットショップ元町

●渋谷店




渋谷区渋谷1−25−6 勝田50
☎03(400)7390

●横浜店




横浜市中区元町5−203 勝田231
元町スカイビル5階
☎045(651)2020

## 12/16〜1/10

クリスマス & 5周年記念 & お年玉

## &&バーゲン



——第8回世界女子選手権(ユーバー杯)大会アジア地区予選・対韓国戦——
ユ杯奪還へ好スタート ……2
韓国に7－0の圧勝

——第28回全日本学生バドミントン選手権大会——
中大圧勝で10回目 ……6
西村の欠場を吉岡が埋める
日体大、3年振りの奪還 ……8
関根・大塚が大車輪の活躍
長谷川、がっちり2連勝 ……10
4年生・仲尾は2位,宮崎は3位
男子顔負け、近藤が独走 ……12
足首捻挫もなんのその
仲尾・佐藤、強打で混戦に断 ……14
管・米山、波に乗れず惜しくも2位
安定した関根・大塚に凱歌 ……16
懸命の植野・佐藤が2位へ

魔の金曜日———(H・A・シェーラ) ……24
高等法院判決文～台湾、勝訴し完全復帰へ

新・ガッツ小島の体当り実戦教室8 ——— 小島一平
ヨーロッパ初遠征 ……26
エツコのバドミントン・ライフ7 ——— 柵野尾悦子
異国の地で、高木組に初勝利 ……28

社会体育クラブを指導して ——— 熊本バドミントン・クラブ 芦原健身
〝我が子〟とともに10年 ……33
私たちのクラブ ——— 熊本バドミントンクラブ・主将 高峰和子
とろうと思わんけん、とれた ……35

オールジャパン組合せ決まる ……37

◎カレンダーのお知らせ／39
◎緊急のお願い／40
◎編集室から／40

☆グラフ—全日本学生選手権から

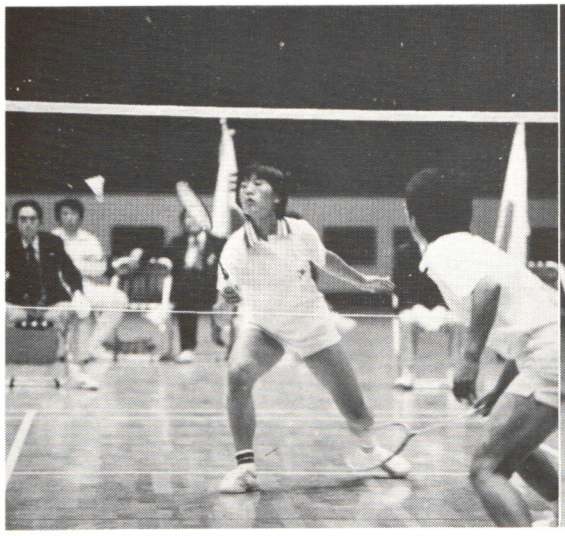
◇表紙デザイン・構成＝野間デザイン室／表紙・本文写真＝赤星三樹（使用カメラ・レンズ、アサヒペンタックスMX　SMC-P-M　50／1.4）
◇今月の表紙＝全日本学生選手権女子シングルスに優勝した近藤小織選手（日本女子体育大学）

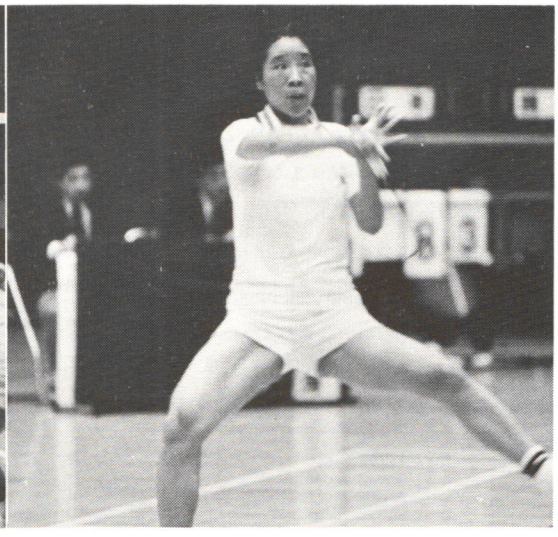
大会アジア地区予選対韓国戦

# 好スタート

## の圧勝

朴玉連(専売庁)





呉研漢(釜山市庁)対近藤小織(日女体大・手前)

**第8回世界女子選手権（ユーバー杯）大会アジア地区予選対韓国戦が10月23日、東京都台東区体育館で開催された。**

**栂野尾選手が欠場したために苦戦が予想されたが、初出場の選手がよく頑張り、7—0の完勝で幸先よいスタートを切った。**

日　本7（単3—0　複4—0）0韓　国

▽第1シングル

湯　木2（11—12　11—2　11—1）1　朴

### 湯木スタートでヒヤリ

日本の絶対に落としてはならない切り札、エース湯木。その湯木が、強力なスマッシュを中心とした攻撃型の朴に大いに苦しめられた。

第1ゲーム、スタートから湯木は凡ミスを重ねて0—3とリードを許し、すぐにカットを多用して追いついたがいつもの丁寧さが見られない。5—3とリードしたのもつかの間、数回のサービス権の移動の後5—7と逆転され、まさに一進一退。湯木はフォア奥からのクロスカットを有効に使って8—7と再逆転。しかし強気一辺倒に攻める朴も好調さを示し、角度あるスマッシュを放って反撃する。ネット前へラッシングするスピードも豊かで、独特のフェイントの効いたヘアピンに湯木もしばしばノータッチの苦しい戦い。

連続3ポイントを奪われてゲームポイントを与えた湯木は、朴の鋭い攻撃をよく凌いでセッティングに持ち込んだが、固い動きは依然としてほぐれず、首をひねるポーズが目立つ。それを象徴するかのように、セッティングに入ってから、ダブルスのサイドラインを1メートルも割るクリヤーミスをおかす湯木。今までサイドラインを1メートル以上も割る湯木のクリヤーミスを見たことがあっただろうか。いかにこの一戦が大事な試合であるかをかい間見る思いだ。さすがの湯木にもプレッシャーがかかっているとしか思えないこの大きなミス。ユ杯奪還への道は険しく、前途多難の感を抱かせた。

しかし1ゲーム目を取られた湯木は、それがかえって冷静さをとり戻す薬になったのか、2ゲームに入ると精神的重圧から解放されたように本来の姿を披露し始めた。

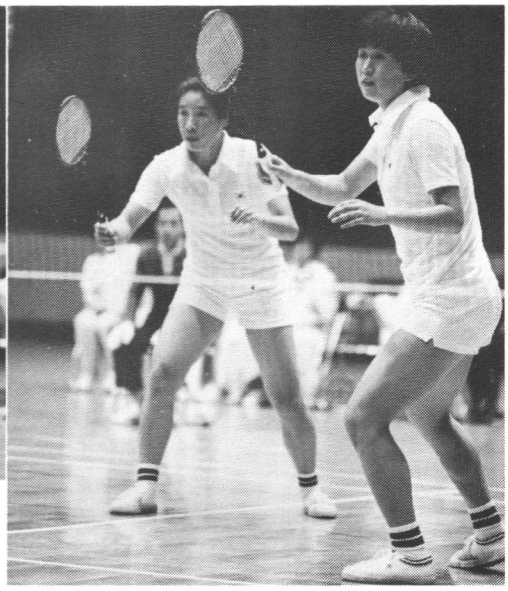
逆に徹底して攻めまくるために体方の消耗が目立つ朴は、ス

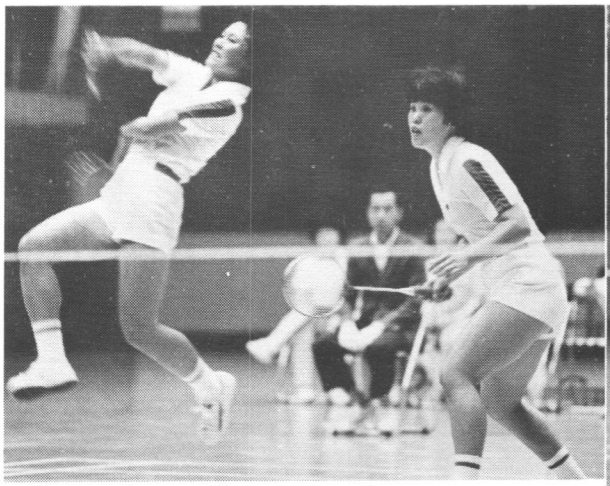
## 第8回世界女子選手権(ユーバー杯

# ユ杯奪還へ

## 韓国に7-

朴玉連(専売庁)㊧・宋香順(慶南大2年)





徳田敦子(サントリー)㊧・高田幹子(同)

マッシュの後の処理が遅くなり、レシーブエースでの失点が多くなり、コーナーぎりぎりをつく湯木のクリヤー、ヘアピンに戦意を失って完全にペースを狂わされた恰好となった。

五分間の休憩をはさんだファイナルゲームも、8—0から僅か1ポイントを許しただけの湯木の一方的な内容で、試合開始に流れた〝韓国強し〟の不安感を一掃して、トップシングルスの重責を見事に果たした。

**▽第2シングルス**

徳　田　2　(11—8　11—2)　0　宋

### あり余る元気

成長著しい徳田も、やはり緊張するのか、第1ゲームは得点する機会に惜しいミスの連続で、白熱した試合になった。

両者とも速いドリブン・クリヤー、スマッシュを主体にしたオーソドックスな攻防。追いつ追われつのシーソーゲームを展開したが、8オールから宋に痛いミスが重なり、徳田が3ポイントを連取してゲームの主導権を握った。

宋はショート・サービスを巧みに織り込み、ロング・サービスにも高低の変化をつけて対抗したが、大事な場面でミスが出て荒けずりなプレーを暴露してしまった。

第2ゲームになると、宋の力強いスマッシュも2ポイントを先取するまで。それからは徳田の独り舞台。掛け声が大きすぎて審判に注意されるほどの元気の良さで走り回り、0—2から簡単に逆転。以後を、サービス権を二度しか与えないという完璧な出来を見せた。

宋は、長身からのスマッシュに活路を見いだせず、おまけにカットにミスが続発して自滅してしまった。徳田の気力勝ちであった。

**▽第3シングルス**

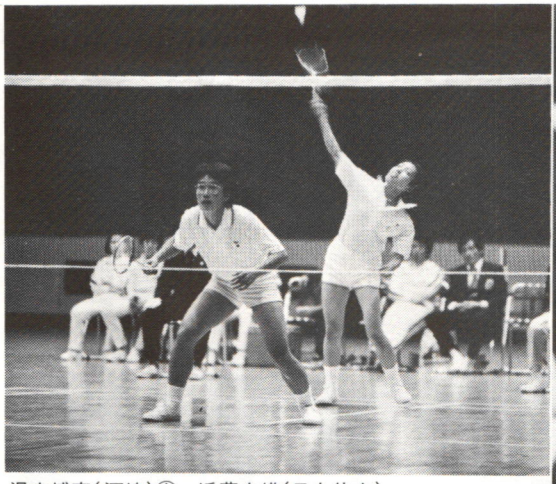
近　藤　2　(11—7　11—5)　0　呉

### 強打ならまかせておけ

スマッシュに破壊力を持つ近藤と、コート一杯に使ったクリアーとカットで応戦する呉の好試合となった。

第1・2シングルスとまったく同じように第1ゲームは相譲らぬ大激戦。近藤が2—0とリードすれば、呉が追いつき、5—2と引き離せば5—6と逆転するといった具合に死力を尽した対戦。

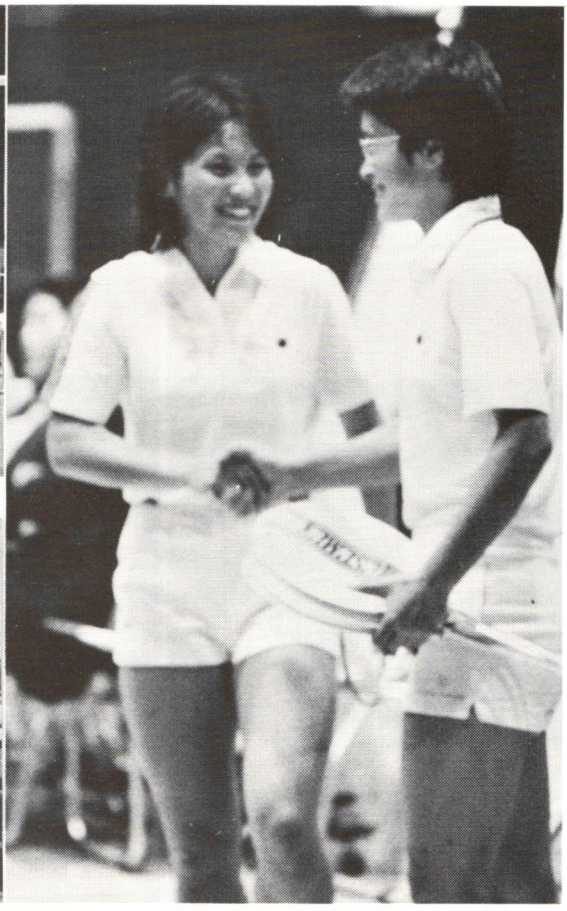
近藤の強打を呉がうまく拾って、好ラリーの応酬に観衆から惜しみなく拍手が沸き上がる。



湯木博恵(河崎)㊨・近藤小織(日女体大)



劣勢ムードに心なしか表情も暗い韓国ベンチ



勝利が決定した一瞬、思わずかけ寄り……

凡ミスの少ない見応えのあるラリーが続いた。しかし、不運にも呉は、1ゲーム終盤に指を負傷して7―8と追い上げたものの3ポイントを連取され、せっかくの盛り上がった試合をものにすることができなかった。

第2ゲームになっても素晴しいラリーの応酬が続いたが、指の負傷が精神的なダメージになったのか、呉は3オールからは常に後手後手となり、一度もリードを奪えないままに、強打の近藤に押し切られてしまった。

それにしても近藤は、強引とも思えるスマッシュ攻撃を果敢に試みて、その女子らしからぬプレーを貫き通すあたり、大物の資格十分である。

▽**第1ダブルス**

徳田 2 (15―6, 15―5) 0 宋
高田 2 (15―6, 15―5) 0 朴

## レシーブで上回る

今年、実業団・社会人の二大タイトルを手にした徳田・高田組は、初出場にもかかわらず堂堂とした試合を見せてくれた。

1ゲーム開始早々、徳田・高田組のスマッシュがよく当り、6―3と幸先よいスタート。この試合を勝てばアジア地区決勝へ進出が決定するとあって、気合の入った攻撃。宋・朴組も大型同士のコンビから強打を駆使して反撃するが、徳田・高田組の早い切り返しに、なかなか得点に結びつかない。しばしば左右に振られてノータッチを繰り返し、肩に力の入ったスマッシュはミスを生む悪循環に攻撃の糸口がつかめないまま1ゲームを終了。

第2ゲームになると、動きの遅くなった宋・朴組を圧倒するように、徳田・高田組はスマッシュ攻撃。スマッシュ、ドライブがサイドライン一杯に決まり、あっという間に9―1と差を広げ、ペースは完全に徳田・高田組。あせる宋・朴組はスマッシュ・レシーブにもミスが続いてまったくのワンサイドでゲームセット。初出場ながら動きの差で上回った徳田・高田組の、バランスのとれた攻守が、安定感を抱かせた。スピードのあったドライブ、前衛でのプッシュ。ミスの少ないスマッシュ・レシーブで、日本のアジア地区決勝進出を決める殊勲を立てた。

ユ杯のキーポイントになるダブルスだけに、これからの飛躍が期待される。

▽**第2ダブルス**

湯木 2 (17―15, 15―2) 0 呉
近藤 2 (17―15, 15―2) 0 姜

## 即席ペア大ゆれ

湯木・近藤組が即席ダブルス

の弱点を第1ゲームにさらけ出して、一瞬ヒヤリとさせた。

4オールから湯木・近藤組は、快調なペースでゲームポイントまでを連取したが、ここからが大変だった。凡ミスを繰り返すうちに歯止めが効かなくなったように、あれよあれよという間に10ポイント連続して取られ、セッティングまで持ち込まれた。さすがに締めるべきところは締めてセッティングをものにしたが、ラリーも続かず、勝敗が決定した直後でお互いに気の抜けたような内容だった。

2ゲーム目になると、若い16歳の姜にミスが目立ち、湯木・近藤組は落ち着いたレシーブ力を発揮して、つけ入る隙を与えなかった。

▽第3ダブルス

| | | | |
|---|---|---|---|
| 徳田 | 2 | (15—11 | |
| 高田 | | 13—15 | 1 呉 |
| | | 15—10) | 姜 |

## 16歳の姜が活躍

徳田・高田組が第1ゲーム後半から調子を出して、食い下がる呉・姜組を振り切ったので、ストレートで決まるかと思われた。しかし巧妙な呉のリードオフマン振りが発揮され、若い姜の力を十二分に引き出して、一矢を報いようとする意欲がうかがえた。

第2ゲームに入ると、呉の高い打点からの鋭いスマッシュ、姜のネットプレーのコンビネーションがピッタリと合い、6—3、8—5、13—8と常にリードを保って有利に試合を展開。13オールからのセッティングを嫌ったのが成功して、ファイナルゲームへ持ち込んだ。

ファイナルゲームになると、長いラリーの応酬が続き、ファインプレーの続出で、今大会一番の好試合となった。

徳田・高田組は3—4、4—6、5—9と、どうしてもリードを奪えず苦戦したが、若い姜のスマッシュが不安定になったのに乗じて、一気に7ポイントを連取して大勢を決した。

呉のリードもさることながら、弱冠16歳で頑張った姜は、小柄ながら全身がバネのような精力的な動きで、これからの韓国の貴重な戦力となるだろう。

▽第4ダブルス

| | | | |
|---|---|---|---|
| 湯木 | 2 | (15—9 | |
| 近藤 | | 15—9) | 0 宋 朴 |

## 恐るべき韓国の強打

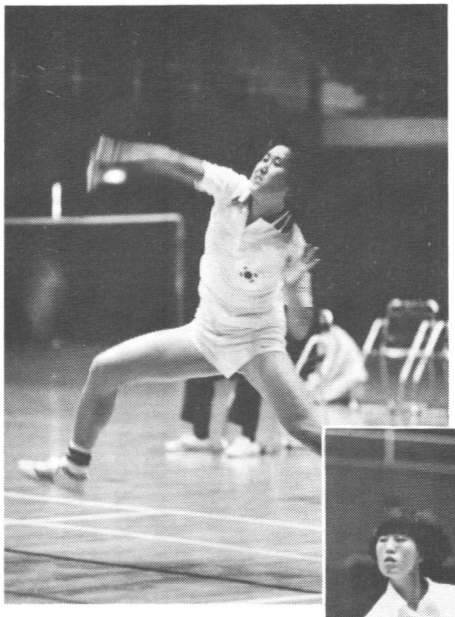
完敗を免れたい韓国は、最終試合になってもあきらめずに、執拗に攻撃を繰り返してきた。

近藤に優るとも劣らないスマッシュ力を持つ宋・朴組は、何とか力で押き切ろうと打ちまくるが、湯木の鮮やかなレシーブでハーフに落とされ、連打するチャンスをつぶされてしまった。

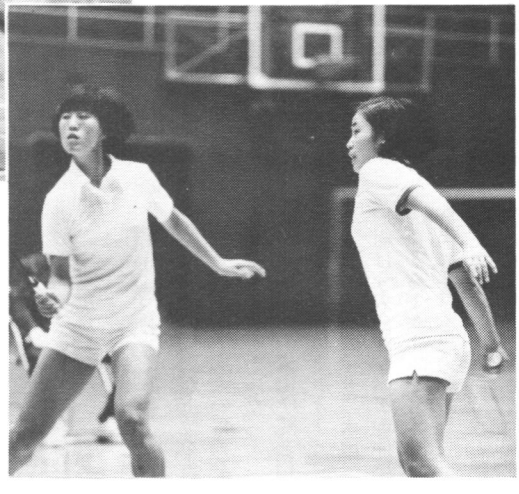
湯木・近藤組は、対呉・姜組とはうって変って、要所要所を締める試合運びで、力の韓国ペアを見事に降した。

総体的に見ると、力の韓国に対し、巧者の日本が上回った形になったが、しかしスマッシュ一つを比較しても、日本の近藤クラスの選手が韓国出場選手の4人の中に3人はいた。スマッシュだけがすべてではないが、ここらに日本チームの課題が潜んでいるかも知れない。

宋香順(慶南大2年)



呉研漢(釜山市庁)㊧
恙幸淑(馬山聖旨高2年)



# 中大圧勝で10回目

## 西村の欠場を吉岡が埋める

秩父宮杯・秩父宮妃杯争奪、第28回全日本学生バドミントン選手権大会が、秋空さわやかな11月1日から6日間、鳥取県・鳥取市民体育館で開かれた。

なお、大会に先がけて行なわれた東西対抗は、東軍が全勝を飾った。

**◆男子団体**

**▽準々決勝**

○中大 3―0 近畿大

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 管 | | | | | | |
| 米山 | 2 | 15―10 | 15―4 | 1 | 15―18 | 増田 |
| | | | | | | 足立 |
| 長谷川 | | 15―3 | 15―5 | 0 | | 梅田 |
| 吉岡 | 2 | | | | | 小場 |
| 長谷川 | 2 | 15―5 | 15―5 | 0 | | 梅田 |

○日体大 3―0 慶応大

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 工藤 | | | | | | |
| 中村 | 2 | 15―8 | 15―9 | 0 | | 宮崎 |
| | | | | | | 諏訪 |
| 西村 | | 15―5 | 7―15 | 1 | 15―1 | 橋本 |
| 秋庭 | 2 | | | | | 木村 |
| 工藤 | | 15―5 | 15―4 | 0 | | 森下 |
| | 2 | | | | | |

○日大 3―1 早大

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 後藤 | | | | | | |
| 高橋 | 2 | 15―6 | 15―5 | 0 | | 小中 |
| | | | | | | 茶谷 |
| 中谷 | | 15―13 | 15―6 | 0 | | 水内 |
| 伊東 | 2 | | | | | 平野 |

亀里 0 | 9―15 | 15―3 | 1 | 14―18 | 15―15 | 2 亀谷 高橋 2

○法大 3―0 東北学大

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 仲尾 | | | | | | |
| 佐藤 | 2 | 15―6 | 15―9 | 1 | 5―15 | 永田 |
| | | | | | | 尾形 |
| 富田 | | 15―0 | 15―7 | 0 | | 伊藤 |
| 酒井 | 2 | | | | | 渡辺 |
| 仲尾 | 2 | 15―6 | 15―1 | 0 | | 小笠原 |

**▽準決勝**

○中大 3―0 日体大

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 長谷川 | | | | | | |
| 吉岡 | 2 | 15―7 | 18―13 | 0 | | 西村 |
| | | | | | | 秋庭 |
| 管 | | 15―8 | 15―5 | 0 | | 工藤 |
| 米山 | 2 | | | | | 中村 |
| 長谷川 | 2 | 15―6 | 15―4 | 0 | | 岩崎 |

○日大 3―2 法大

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 山本 | | | | | | |
| 高橋 | 2 | 15―10 | 8―15 | 1 | 15―9 | 富田 |
| | | | | | | 酒井 |
| 中谷 | | 15―3 | 15―17 | 1 | 17―16 | 宮森 |
| 伊藤 | 0 | | | | | |
| 坂本 | | 18―15 | 15―2 | 1 | 11―15 | 富田 |
| | 2 | | | | | |
| 山本 | | 9―15 | 15―5 | 2 | 5―15 | 仲尾 |
| | 0 | | | | | |
| 仲尾 | | 6―15 | 1―15 | 2 | | 佐藤 |
| 佐藤 | 2 | | | | | |

**▽決勝**

○中大 3―0 日大

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 長谷川 | | | | | | |
| 吉岡 | 2 | 18―16 | 16―17 | 1 | 15―7 | 山本 |
| | | | | | | 高橋 |
| 管 | | 15―7 | 15―9 | 0 | | 後藤 |
| 米山 | 2 | | | | | 伊藤 |
| 管 | | 15―6 | 15―4 | 0 | | 高橋 |
| | 2 | | | | | |

（中大は5年連続10回目）

### ダブルスが安定

エース長谷川を持つ中大が1回戦から強さを発揮、2回戦で北海道教育大函館分校の熊谷に、吉岡が1失点を許したほか完全な独走態勢でゴールインした。

4年生西村の欠場を、吉岡がよく補って、長谷川との新コンビで暴れ回った。決勝の対山本・高橋戦は、長谷川が懸命に強打して、激しい打ち合いにせり勝ち、日大の野望を打ち砕いた。

管・米山のペアも、今大会は安定して確実に1ポイントを稼いで、大きく優勝に貢献した。レシーブに波がなく、管は思い切りよく前衛に出て前陣速攻を見せ、米山のスマッシュもコースがよく決定率が高くなっていた。

### 日大、総力の2位

日大も、ダブルス、シングルスともに、穴のない布陣を敷いてよく健闘。

特に総力戦となった、準決勝法大戦には、高橋、坂本が大活躍。高橋はマッチポイントを握られながら逆転。坂本は富田の強打を拾ってスタミナの勝負に持ち込み、劣勢を見事にはね返した。団体戦に賭ける日大の、恐しい意欲が感じられた。

法大は、仲尾がダブルス、シングルスに頑張ったが、ダブルスで2ポイント挙げられなかったのが痛く、シングルスではスタミナが切れてしまった。

### 東北学院の健闘

関東地区の代表が上位を占めた中で、東北学院大の奮戦ぶりがひときわ目を引いた。

関東一部校の青山学院を相手に、3―0とストレートでこれを下し、法大戦でも、永田・尾形組は今大会優勝ペアの仲尾・佐藤から1ゲームを奪うなど、会場の注目を集めていた。

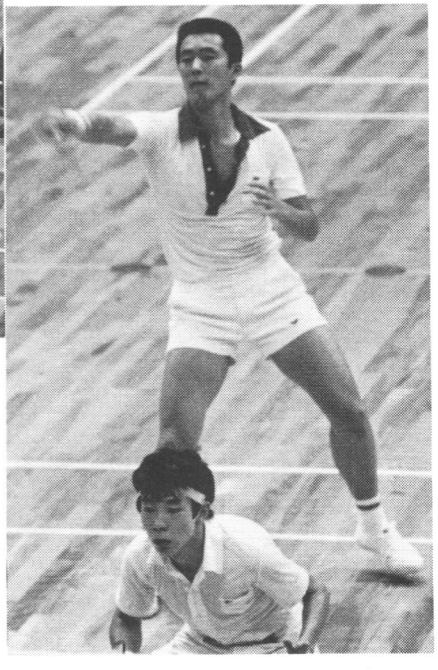
北海道教育大函館分校という異色な出現も、大きな話題を提供していた。




▲優勝した中大チーム



▲団体戦優勝をさけて打ちまくった長谷川・吉岡（中大）



▶法政らしい豪快なダブルスを披露した富田・酒井

# 日体大、3年振りの奪還

## 関根・大塚が大車輪の活躍

◆女子団体

▽準々決勝

○日女体大　3―0　大妻女
近藤2（15―5）0喜多川
渡辺2（15―3）0松田
石田2（15―2）0大友
米倉2（15―8）0梁瀬

○東女体大　3―0　武庫川女
沢内2（15―5）0川添
高岸2（15―11）0四宮
有賀2（11―5）0松本
渡辺2（11―1）0松本

○日体大　3―0　大阪樟蔭女
関根2（15―0）0小出
大塚2（15―2）0宮本
日山2（15―1）0小山
藤井2（15―6）0岡部
大嵜1（11―1）0宮本
関根2（11―1）0川添
加賀美2（15―8）1西影
（15―12）（15―12）
（15―1）1網家

○四条畷短大　3―0　青学大
石川2（15―4）0荒木
前川2（15―4）0山菅
佐藤2（15―7）0橋本
寺坂2（15―7）0若園
石川2（11―9）0代
石川2（11―1）0代

▽準決勝

○日女体大　3―0　東女体大
近藤2（15―1）0柴田
渡辺2（15―2）0南雲
石田2（12―15）
米倉2（15―13）1沢内
（15―4）1高岸

○日体大　3―0　四条畷短大
関根2（15―2）0楠田
大塚2（15―9）0寺坂
日山2（17―14）0佐藤
藤井2（15―10）0石川
関根2（11―0）0前川
近藤2（11―2）0塚本

▽決勝

○日体大　3―2　日女体大
関根2（15―6）0近藤
大塚2（15―11）0渡辺
日山0（12―15）2石田
藤井0（0―15）2米倉
徳永0（2―11）2近藤
関根2（11―4）0渡辺
大塚2（11―9）0米倉
（11―8）

（日体大は3年振り6回目）

### 執念見せる日体大

圧倒的な強さで決勝まで勝ち進んだ日体大と日女体大は、団体戦特有の熱気を含んだ好試合になった。

関根・大塚組が実力を十分に出し切って近藤・渡辺を一蹴すれば、米倉・石田組も日山・藤井組に完勝。まず、ダブルスは予想通り五分のスタートを切った。

第3試合・近藤の起用を見破ったように、日体大は新鋭の徳永を起用。徳永も優勝を何としても奪い返したい日体大の執念を見せて善戦。敗れはしても、1年生らしいキビキビした動きと、物おじしないオーソドックスなプレーで日体大の若さを示した。

この第1シングルスのオーダーが、日体大にとっては最大の味方であり、日女体大にとっては3連勝を逃がす分れ道となり、明暗を分けることになった。

渡辺が精彩なく、関根に敗れた後、両軍の期待を一身に集めた大塚、米倉の重苦しいような試合が開始された。

落ち着いた球さばきを見せる大塚に対し、米倉は持ち前のバネにものいわせて積極的な攻撃。1、2ゲームとも中盤まで米倉がリードしたが、冷静沈着な大塚が、終盤に見事な逆転を演じて、日女体大から王座を奪い返した。

### 3位以下の躍進に期待

3位には、東女体大と四条畷短大が入り、順当な結果となった。

東女体大は、万年3位に甘んじているが、若い層が着実に力をつけているので近い将来、上位2校を脅かす、有力な存在となるだろう。

四条畷短大も、エース植野を欠いてよく頑張ったが、その穴は被い隠せなかった。しかし、有望な新人の加入が約束され、関西の雄としての期待は大きく、これからも台風の目となることは間違いない。

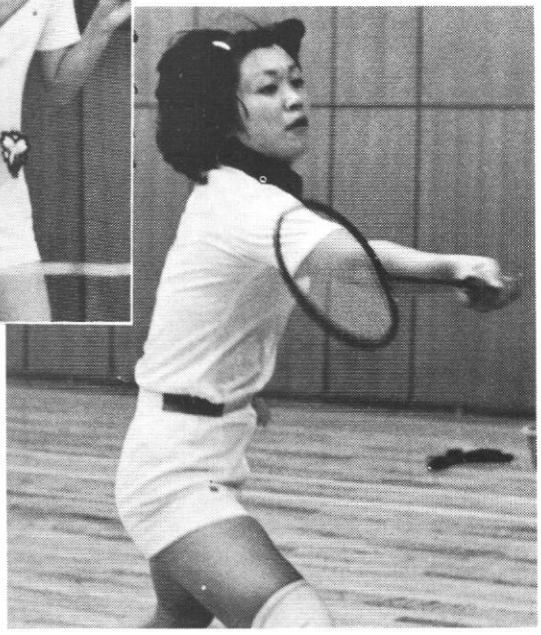
その他では、関西・武庫川女大の活躍と、1回戦でこれと大接戦をした北海道女子短大の地味ながら粘りあるプレーに好感が持たれた。




▲逆転優勝で喜びもひとしおの日体大



▲日山・藤井も大きく優勝に貢献



▶団体戦優勝を決めた大塚（日体大）

# 長谷川、がっちり2連勝

## 4年生・仲尾は2位、宮崎は3位

◆男子シングルス

▽5回戦

| | | | |
|---|---|---|---|
| 長谷川（中大） | 2 | 0 | 鏑木（日体） |
| 茶谷（早大） | 2 | 1 | 本田（熊大） |
| 岩崎（日体） | 2 | 0 | 西村（日体） |
| 宮崎（慶大） | 2 | 0 | 山本（日大） |
| 宮森（法大） | 2 | 0 | 大関（日体） |
| 高橋（日大） | 2 | 1 | 浅沼（日体） |
| 仲尾（法大） | 2 | 0 | 北橋（日体） |
| 工藤（日体） | 2 | 1 | 管（中大） |

▽準々決勝

| | | | |
|---|---|---|---|
| 長谷川 | 2 | 0 | 茶谷 |
| 宮崎 | 2 | 0 | 岩崎 |
| 高橋 | 2 | 0 | 宮森 |
| 仲尾 | 2 | 0 | 工藤 |

▽準決勝

| | | | |
|---|---|---|---|
| 長谷川 | 2 | 0 | 宮崎 |
| 仲尾 | 2 | 0 | 高橋 |

▽決勝

| | | | |
|---|---|---|---|
| 長谷川 | 2 | 0 | 仲尾 |

（長谷川は2年連続2度目）

### ひと工夫欲しかった宮崎

昨年の優勝から、また一歩前進した長谷川の圧勝だった。4回戦の門屋（岡山大）に1ゲームを許しただけの余裕ある勝ちっぷりで楽に決勝へ進出した。

準決勝の宮崎戦では、スタートこそ宮崎の粘りに手を焼いて、1オール、2オール……と6オールまで白熱したラリーの応酬が続いたが、切れのいいストロークに優る長谷川は、四隅に正確なクリヤーとカットを配し、徐々に宮崎の体勢を崩していった。これに対して宮崎は、勝負を意識したのか、がっぷり四つに組んで対抗しようとしたのが裏目に出てしまった。互角に打ち合えばリーチに優る長谷川の角度が一枚上である。苦しまぎれにコーナーを狙う球が、サイドアウトを重ねる。長谷川は高い打点からのカットを有効に使ってチャンスボールを待ち、確実に得点を重ねた。

第2ゲームになっても両者は1ゲーム目の延長を繰り返し、宮崎は意外にあっけない敗戦を喫した。ベスト4へ勝ち進むまでの好調さから、熱戦が期待されたが、宮崎の対長谷川戦の策にひと工夫が望まれた。

### 角度は随一、仲尾

これに対して決勝へ進んだ仲尾は、今大会、学生最後を飾るにふさわしい健闘ぶりで、準決勝の高橋に対して気合の入ったプレーで圧倒した。高橋も団体戦で捻った足首を気にしながらも、よくベスト4まで顔を出し成長著しいところを示した。

ともに強力なスマッシュを武器にする仲尾、高橋の対戦だったが、打点の高さで仲尾が押しぎみに試合を進め、高橋の凡ミスを誘発して一方的なスコアとなった。高橋も反撃しようとするが、角度あるカット、スマッシュにノータッチが数多く、波に乗り切れないままに敗れ去った。

何よりも、仲尾の長身がものをいった試合だった。

### 長谷川、終始マイペース

ともに長身の対戦となった決勝は、一発の魅力を秘めた仲尾に疲労の色が濃く、雑なプレーが次第に多くなって自滅した。

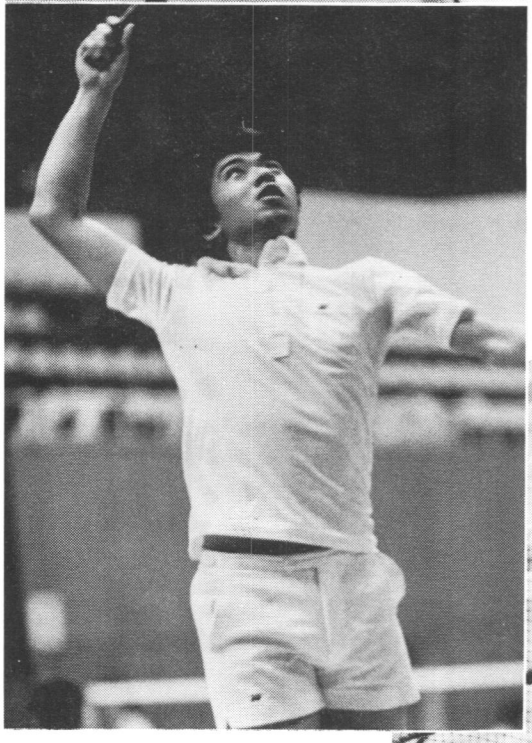
長谷川は相手をよく見た冷静なプレーで、深いクリヤーを左右に散らして着々とポイント。仲尾も時おり鋭いカットを打つが単発的で持続性がない。中盤からは、仲尾の汗をふく姿も、スタミナが切れたのを物語って痛々しい。一発目のミスが多くなり、長谷川はますますクリヤーを多用して、最後は7ポイントを連取してゲームセット。

この日、ダブルス、シングルスともに決勝へ進出した仲尾だったが、肉体が先に試合を放棄したようだった。

その他では、昨年の3位、管をファイナルの末下した工藤、一年生ながら5回戦まで勝ち進んだ北橋、西日本で気を吐いた本田などが挙げられる。

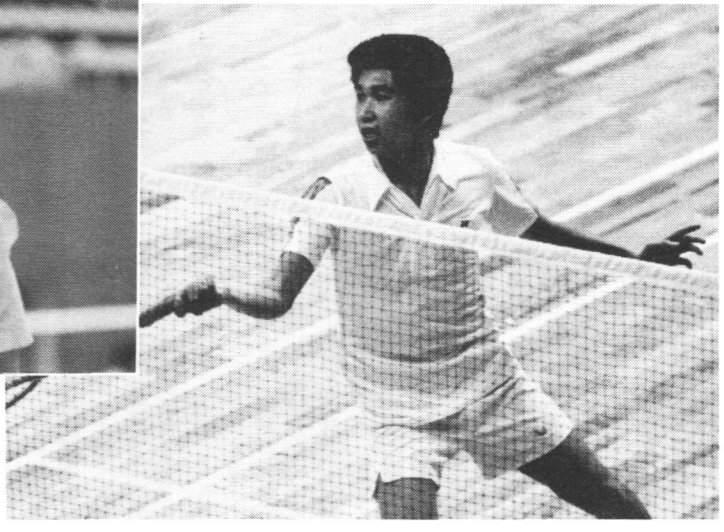


▲向うところ敵なしの感で2連覇の長谷川（中大）



◀団体・個人戦を通して暴れ回った熊谷（北海道教育大函館分校）

▼仲尾から1ゲームを奪い善戦した諸田（同志社）



# 男子顔負け、近藤が独走

## 足首捻挫もなんのその

◆女子シングルス

▽4回戦

米倉（日女体）2 11—6 11—2 0 石井（日体）

大塚（日体）2 11—6 11—5 0 石川（四条畷）

大嶌（日体）2 7—11 11—3 11—0 1 佐藤（四条畷）

近藤（日女体）2 11—2 11—0 0 徳永（日体）

渡辺喜（日女体）2 4—11 11—2 11—4 1 加藤（日女体）

日山（日体）2 11—7 12—11 0 石田（日女体）

関根（日体）2 11—3 11—2 0 平野（日体）

渡辺多（日女体）2 11—4 12—11 0 柴田（東女体）

▽準々決勝

米倉2 11—8 11—7 0 大塚

近藤2 11—3 11—2 0 大嶌

日山2 11—6 11—2 0 渡辺喜

関根2 11—6 11—8 0 渡辺多

▽準決勝

近藤2 11—4 6—11 11—7 1 米倉

関根2 11—8 11—8 0 日山

▽決勝

近藤2 11—4 11—1 0 関根

（近藤は初優勝）

### 米倉、あと一歩およばず

同校同士の対戦となった準決勝はともに接戦を演じたが、近藤、関根が順当に勝ち上がった。

近藤対米倉は、米倉が積極的に攻めるが、決定打を導くまでにミスが出て得点にならず、あせってはカットをネットにひっかけて自滅。クリヤー、スマッシュのサイドアウトも多く、簡単に第1ゲームを失った。

しかし米倉は、第2ゲームに入ると別人のような集中力を見せ、3オール、4オールから面白いように速攻を決めて、終始リードを保ちファイナルへ勝負を持ち込んだ。

ファイナルゲームになると、米倉のフォアからのクロスカットが効いて0オールのままサービス権の移動が続く。3度目のクロスカットを思い切って拾おうとした際に、近藤は足首を捻ってコートに倒れてしまった。試合続行が危ぶまれたが、大したこともないといった顔をしてプレーを続ける。1—3までやや ぎこちないフットワークを見せたが、それから連続9ポイントを奪って大勢を決した。

足首が痛いのか顔をしかめる表情を見せながら、不思議にミスがなくなり、米倉は反対に、狙いすぎのサイドアウトが多くなり、チャンスを生かすことができなかった。

### 日山も大健闘

関根対日山の日体大勢の対戦は、各ストローク、フットワークにスピードで上回る関根が、終始マイペースを崩さず、危なげなく逃げ切った。

関根は要所要所に、スマッシュの連打を適確に繰り出し、落ち着いた試合運びを見せて貫禄勝ち。

日山もコーナーをよくついて善戦したが、攻撃に今一つスピードがなく、関根の強打を浴びてしまった。しかし日山は持てる力を十分に出し切ってベスト4へ進出。日女体の石田をストレートで破って準決勝へ駒を進めた健闘は立派だった。

### 関根、消極的に自滅

足首に一抹の不安を抱かせる近藤と、今大会絶好調を思わせる関根の決勝は、予想に反して関根に凡ミスが続出して、盛り上がりに欠ける試合となった。

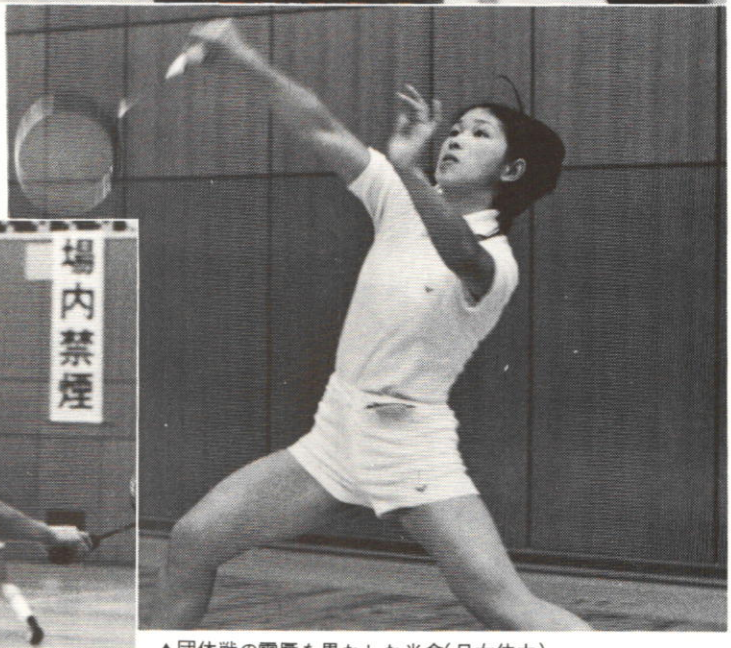
第1ゲーム、いつになく慎重な近藤は、クリアーとカットで相手を探るが、関根は消極的になってラリーが続かない。近藤のネットプレーが冴えて、楽に1ゲームを先取。

第2ゲームに入ると近藤の動きが速くなるのに対し、関根は依然と凡ミスを繰り返し、反撃の気配を見せないままあっけない幕切れとなった。

団体戦では気力充実した素晴しいプレーを見せた日体大勢だったが、この個人戦シングルスでは、大塚にもいつもの精彩がなく敗れ去ったのは、残念でならない。



▲力強いプレーで圧勝した近藤
（日女体大）



▲団体戦の雪辱を果たした米倉(日女体大)




◀学生最後をベスト４で飾った日山（日体大）

# 仲尾・佐藤、強打で混戦に断

## 管・米山、波にのれず惜しくも二位

◆男子ダブルス

▽4回戦

後藤 2 (日大)
加藤 2 (日大)
15—4, 15—3
0 塚本 諸多 (同志社)

小中 2 (茶谷)
茶谷 2 (早大)
15—7, 15—8
0 坂本 鵜浦 (立命館)

鏑木 2 (平野)
平野 2 (日体)
15—6, 17—14
0 中谷 伊藤 (日大)

仲尾 2 (佐藤)
佐藤 2 (日体)
15—6, 15—9
0 小倉 浜 (青学大)

富田 2 (酒井)
酒井 2 (法大)
15—6, 15—4
0 浅沼 沼沢 (日体)

管 2 (米山)
米山 2 (中大)
15—7, 15—7
0 西村 秋庭 (日体)

中村 2 (工藤)
工藤 2 (日体)
15—9, 18—15
0 宮森 峰 (法大)

山本 2 (高橋)
高橋 2 (日大)
14—17, 15—3, 15—12
1 宮崎 諏訪 (慶大)

▽準々決勝

小中 2 (茶谷)
茶谷 2 (早大)
15—2, 15—7
0 後藤 加藤 (同志社)

仲尾 2 (佐藤)
佐藤 2 (日体)
9—15, 15—10, 15—4
1 鏑木 平野 (日体)

管 2 (米山)
米山 2 (中大)
15—10, 15—10, 18—17
0 富田 酒井 (法大)

仲尾 2 (佐藤)
佐藤 2 (日体)
15—7, 15—5
0 小中 茶谷 (早大)

山本 2 (高橋)
高橋 2 (日大)
15—11, 15—12, 15—9
1 管 米山 (中大)

▽準決勝

仲尾 2 (佐藤)
佐藤 2 (日体)
15—11, 15—8
0 管 米山 (中大)

▽決勝

仲尾・佐藤組は初優勝

### スマッシュミスが響く

中大・西村の欠場で第1シードが棄権したために、文字通りの激戦区となった。

準々決勝で富田・酒井組の猛攻を辛くも振り切った管・米山組と、東日本の覇者、山本・高橋組の準決勝は、素晴しい好ゲームとなった。

第1ゲーム、積極的に攻撃する山本・高橋組に対し、管・米山組はレシーブを固めて応戦。10—11から山本のボディをつくスマッシュが見事に決って逆転に成功。第1ゲームを先取。

しかし2ゲーム目になると、山本・高橋組のスマッシュミスが目立つ。決め球を再三ネットへひっかけて、終盤にはサービスミスを重ねて自滅。

息を吹き返した管・米山組はファイナルゲームになると動きも良くなり、6オールから6ポイントを連続して奪取、安全圏へ入った。

山本・高橋組は、スマッシュミスが最後まで大きく響き、惜しい星を落とした。

### 小中・茶谷、ベスト4へ

久々に早大から準決勝へ進出した小中・茶谷組は、長身の仲尾・佐藤組を相手に奮闘したが、打点の差を最後までカバーすることができなかった。

仲尾・佐藤組は、常に高い位置でシャトルをとらえ、小中・茶谷組をレシーブ一方に追いやり、角度あるスマッシュを叩き込んで優位に試合を運んだ。守ってもふところの深い好レシーブを見せ、法大のダブルスの伝統を見せてくれた。

### サービスが明暗

破壊力あるスマッシュを持つ仲尾・佐藤組に対し、管・米山組がどんなレシーブを披露するか期待された。しかし、勝負の明暗を分けたのはサービスであった。

再三の反撃機に、サービスミスはもとより、浮いたサービスをことごとくプッシュで決められては、管・米山組はサービス一つで敗れた悔いの残る内容だった。

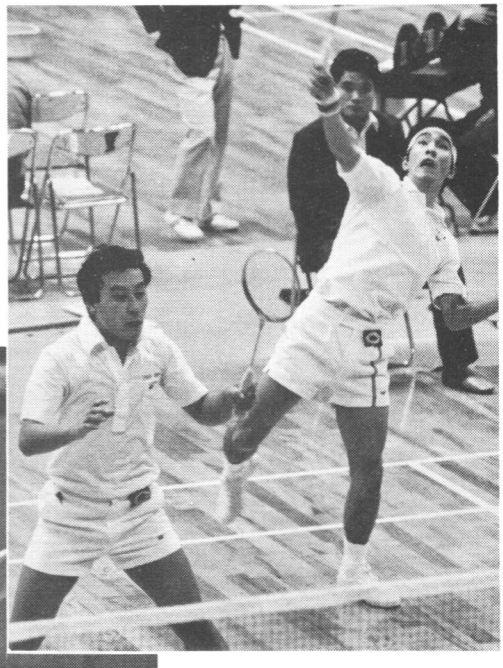
サービスで歯車の狂った管・米山組は、せっかくのチャンスにも集中力のないミスが多く、準決勝で見せたハリのあるプレーが影をひそめていた。

仲尾・佐藤組は、個人戦に入ってから安定した強さを発揮して、混戦の中を1ゲームしか与えずに優勝を飾ったことは賞讃に価する。

ベスト4へ残ったペアの他にも、富田・酒井組、鏑木・平野組、宮崎・諏訪組など好ペアが数多く、面白い試合にあふれた男子ダブルスだった。

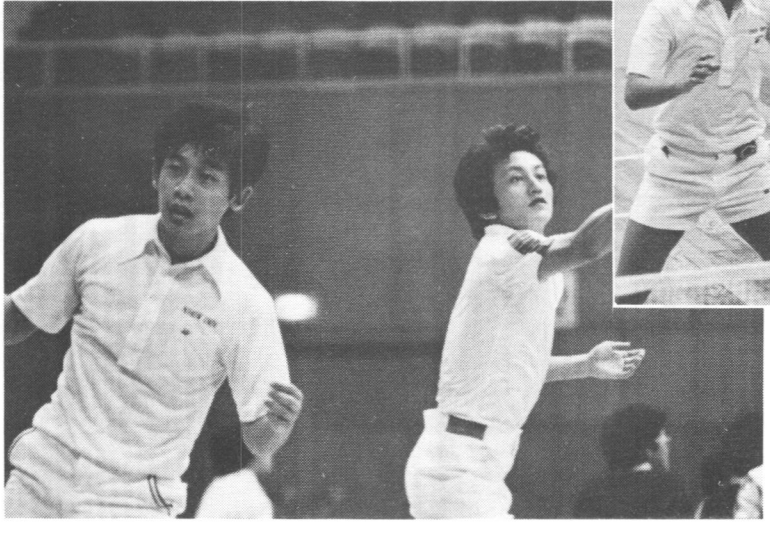


▲高い打点で優勝をつかんだ仲尾・佐藤（法大）



▶安定したコンビを見せた管・米山（中大）

▼着実に力をつけた山本・高橋(日大)は３位



# 安定した関根・大塚に凱歌

## 懸命の植野・佐藤が2位へ

◆女子ダブルス

▽3回戦

関根 大塚 2 (15—3, 15—12) 0 加藤 小寺（日女体）
石川 前川 2 (15—5, 15—9) 0 上野 島田（日女体）
沢内 高岸 2 (16—17, 15—10, 18—16) 1 平野 宮野（日体）
近藤 渡辺 2 (15—4, 15—10) 0 石田 石井（日女体）
植野 佐藤 2 (10—15, 15—10, 15—5) 1 大島 金田（日体）
徳永 枝 2 (15—3, 15—10) 0 本吉 福興（四条畷）
日山 藤井 2 (15—2, 15—4) 0 川添 四宮（日女体）
米倉 石田 2 (15—5, 17—14) 0 柴田 南雲（武庫川）

▽準々決勝

関根 大塚 2 (15—4, 15—10) 0 石川 前川（日女体）
近藤 渡辺 2 (15—4, 15—6) 0 沢内 高岸（東女体）
植野 佐藤 2 (13—18, 15—3, 15—5) 1 徳永 枝（四条畷）
米倉 石田 2 (15—7, 15—8) 0 日山 藤井（日女体）

▽準決勝

関根 大塚 2 (15—12, 15—6) 0 近藤 渡辺（東女体）
植野 佐藤 2 (15—7, 18—17) 0 米倉 石田（日女体）

▽決勝

関根 大塚 2 (15—6, 15—9, 15—9) 1 植野 佐藤（関根・大塚組は初優勝）

**植野・佐藤、関西の意地**

団体戦、そしてシングルスを棄権した、ユ杯メンバーの植野が出場して、東高西低のままに終ろうとした大会を大いに盛り上げた。

靱帯を故障して、大会期間中だけの調整で試合に臨んだ植野は、さすがに攻撃にはあまり加わらず、準決勝の米倉・石田組戦は防戦一方の苦しい試合となった。

第1ゲーム、米倉・石田組が積極的に打って出て、一時は0—3から6—3と逆転したが、植野・佐藤組のうまい試合運びにあって得点が伸びず、完敗。

第2ゲームになると米倉・石田組は、次第に凡ミスが少なくなって長いラリーの応酬が始まる。しかし、長いラリーにも植野・佐藤組が競り勝ち、米倉・石田組の精神的なダメージが表われて、先に13ポイントを取るがセッティングに持ち込まれ、息切れするように、最後は凡ミスで決着がついた。

植野・佐藤組は、破壊的な攻撃力に欠ける分を、植野がうまいレシーブの配球で切り返し、素早く前衛に出るパターンで、ダブルス巧者らしい試合を見せた。

一方の準決勝、関根・大塚組対近藤・渡辺組は、近藤・渡辺組にまったく元気がなく、関根・大塚組の攻撃的なトップアンドバックの陣型に、抵抗する気配を見せず、準決勝戦らしからぬ凡戦となった。

近藤・渡辺組は、スピードのないハーフの球を繰り返すだけで、強打も見せず、関根・大塚組の気力溢れる攻勢を、なすがままに受けてしまった。調子の波に乗れないモロさとともに、ダブルスのむずかしさを改めて知らされる一戦でもあった。

**攻撃に徹底、関根・大塚**

東西の対決になった決勝は、雌雄を決するにふさわしい熱戦となった。

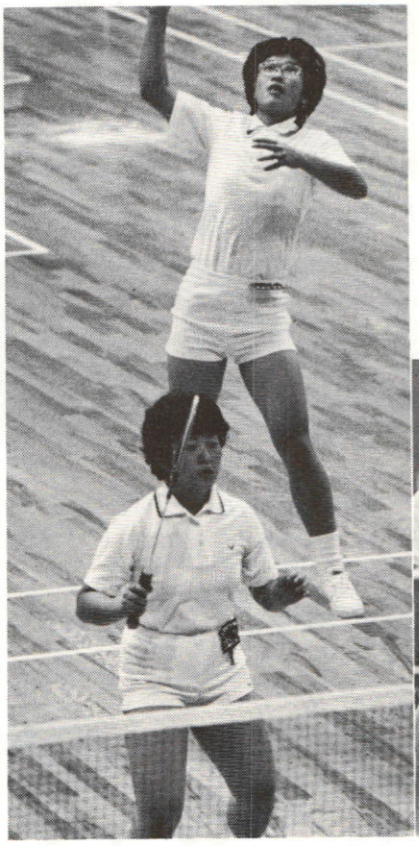
第1ゲーム、序盤は植野・佐藤組のカットが効果的に決まって先手を取ったが、徐々に関根・大塚組の前後衛の陣型が展開されて、スマッシュコースもよく相手の逆モーションをついてまずリード。

しかし、第2ゲームになると植野・佐藤組も、スマッシュレシーブにミスがなくなり、関根・大塚組にあせりが目立つ。懸命に拾いまくる植野・佐藤組にファインプレーが続出してファイナルにもつれこんだ。

忘れかけていた前後衛の陣型を思い出した関根・大塚組は、ファイナルゲームはまた、相手の逆をつく冷静さを取り戻し、スマッシュを巧みに散らして、粘る植野・佐藤組を振り切った。

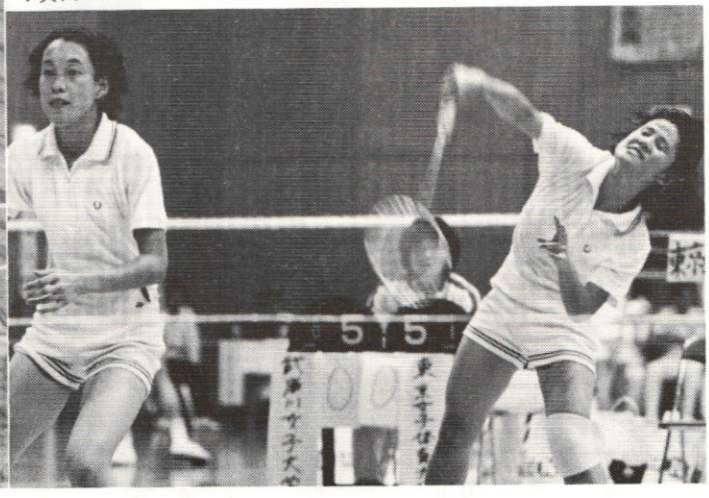


▲安定感のあるプレーで初優勝の関根・大塚（日体大）



◀ダブルスでは力を出しきれなかった近藤・渡辺(日女体大)

▼真剣な試合ぶりが目をひいた川添・四宮（武庫川女）



from carlton England

# 1,000,000ダース

カールトン・ナイロンシャトルの年間生産量です。

ニュートーナメント

1個
¥280



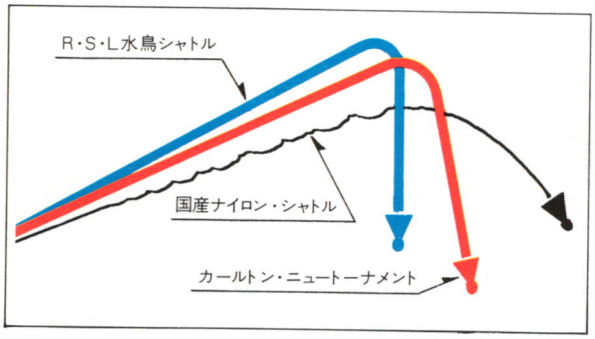




インターナショナル

1個
¥220

## だから、こんなに安い価格で輸入品がお求めになれます。





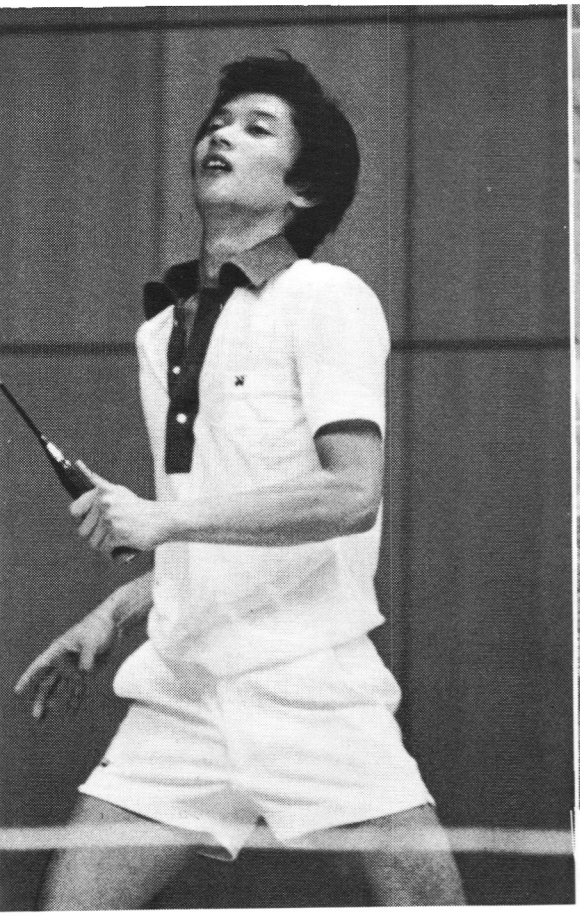

ニュートーナメント：ターンオーバーがはやい。

左の図は、シャトルの飛行線を表わしたものです。カールトン・ニュートーナメントが水鳥シャトルの飛び方にいかに酷似しているか、おわかり頂けると思います。

## しかも、国産品とは飛びが違います。

総発売元 メトロレジャー株式会社
〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

# だからシャトルコックならカールトン





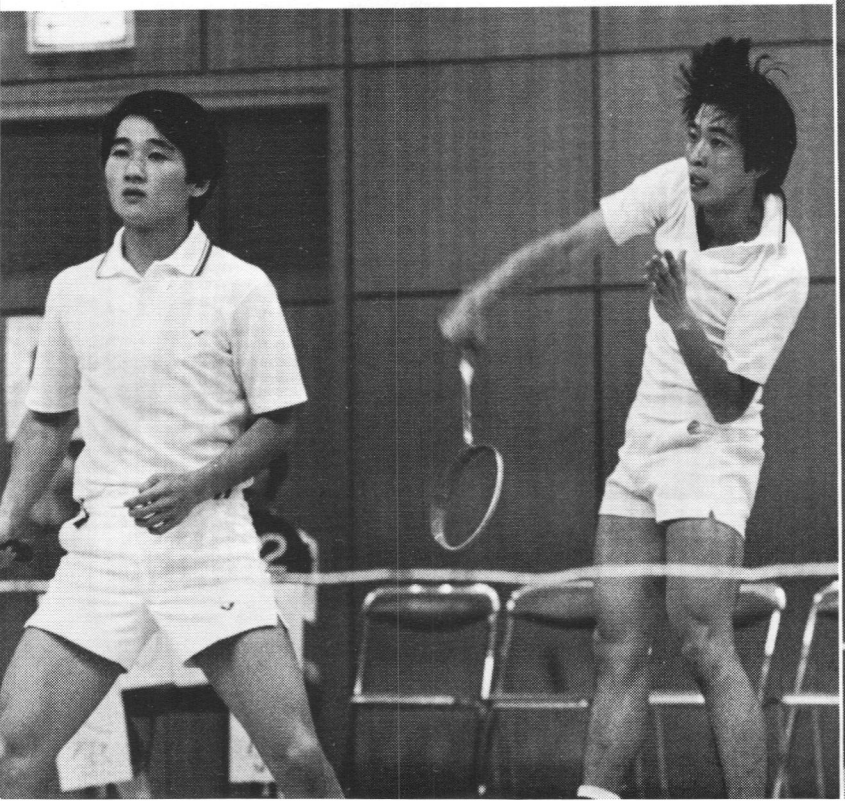
▲混戦を見事に切り抜けた大型ペア、仲尾・佐藤（法大）

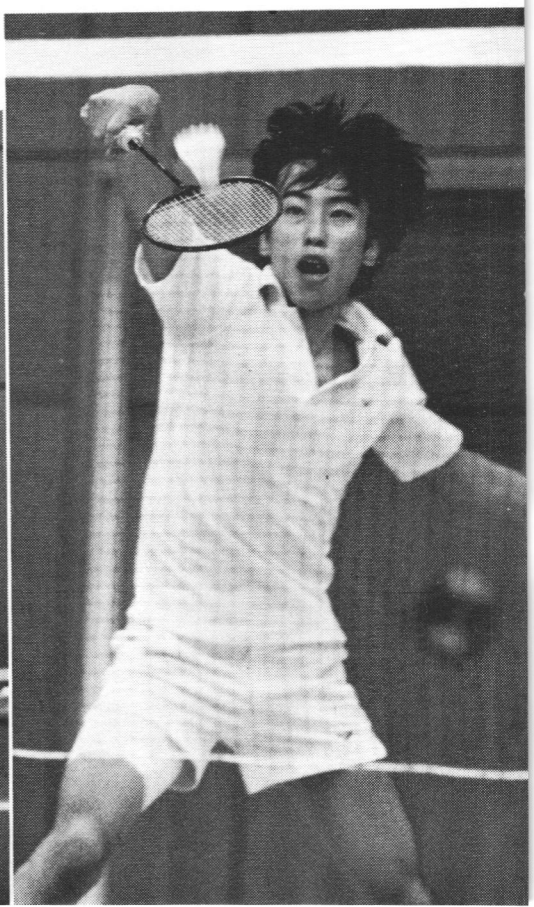
◀2年連続シングルスを制した長谷川（中大）

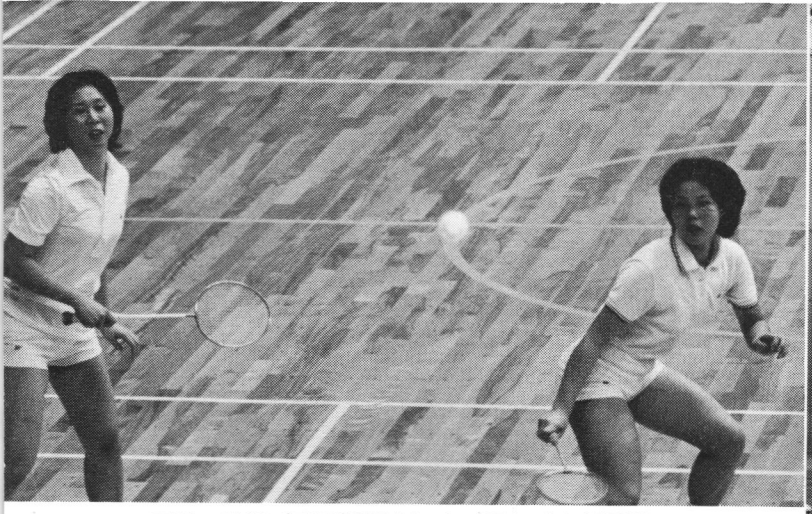
# インカレで活躍した選手達

▶堅実なプレーで上位入賞を果した宮崎（慶大）

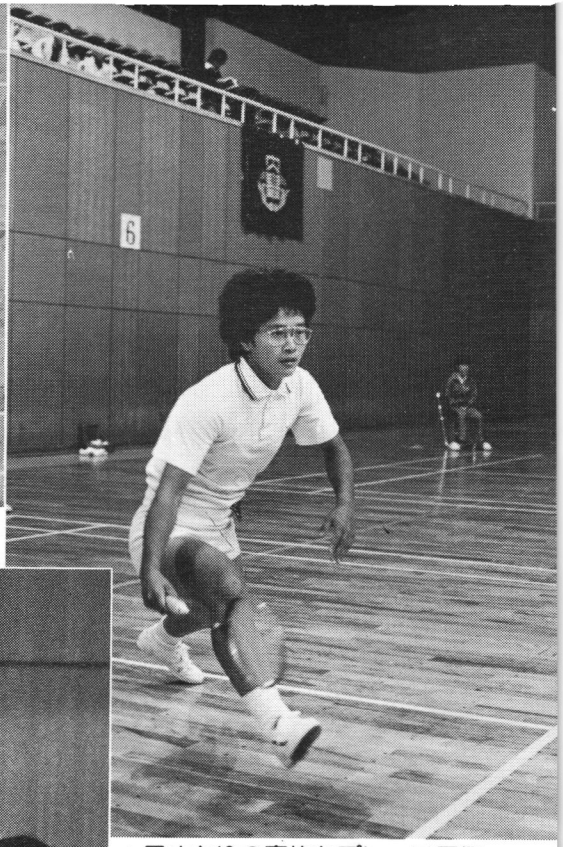
▼小中・茶谷（早大）もベスト4にくい込む大健闘







▲石川・前川（四条畷短大）もベスト４へ名乗り

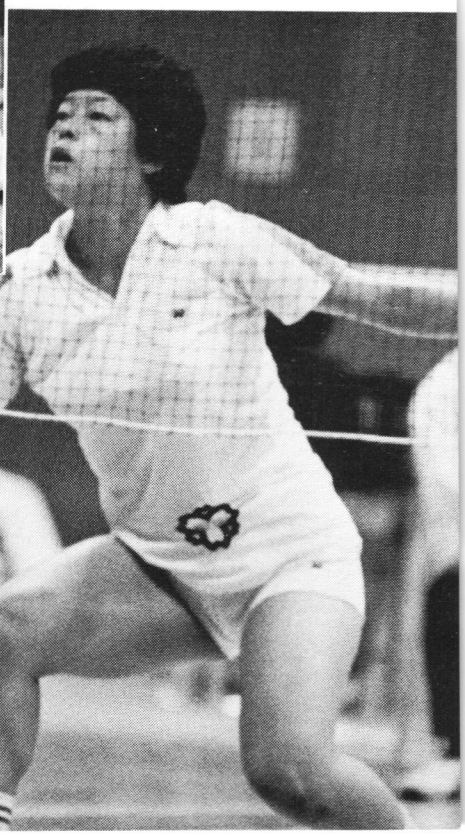


▲男まさりの豪快なプレーで圧倒した近藤（日女体大）



◀堂々とダブルスに優勝した関根・大塚（日体大）

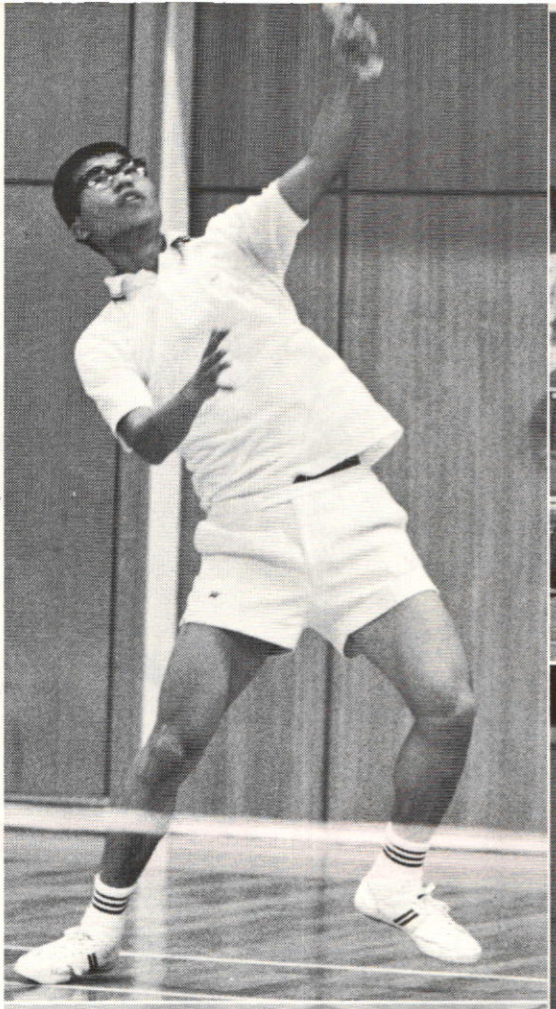
▼しぶといプレーで準優勝の関根（日体大）



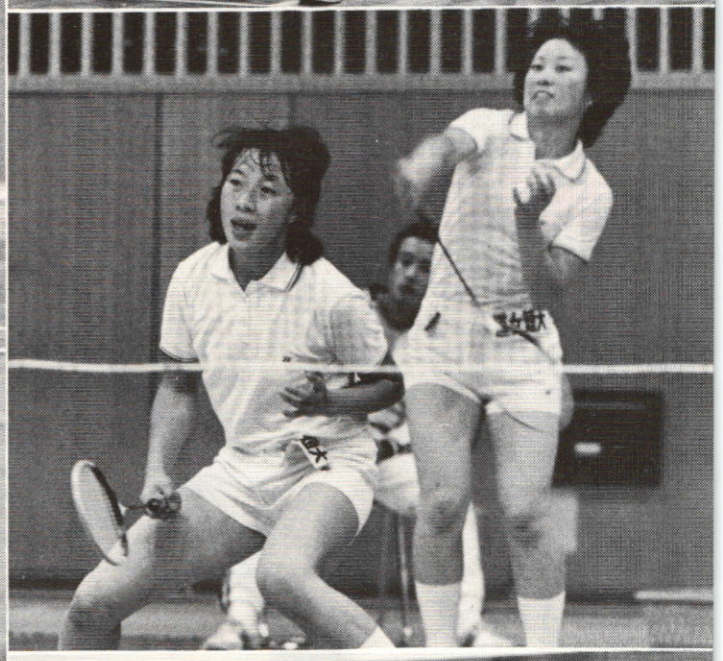
▼団体戦３位の原動力となった沢内・高岸（東女体大）

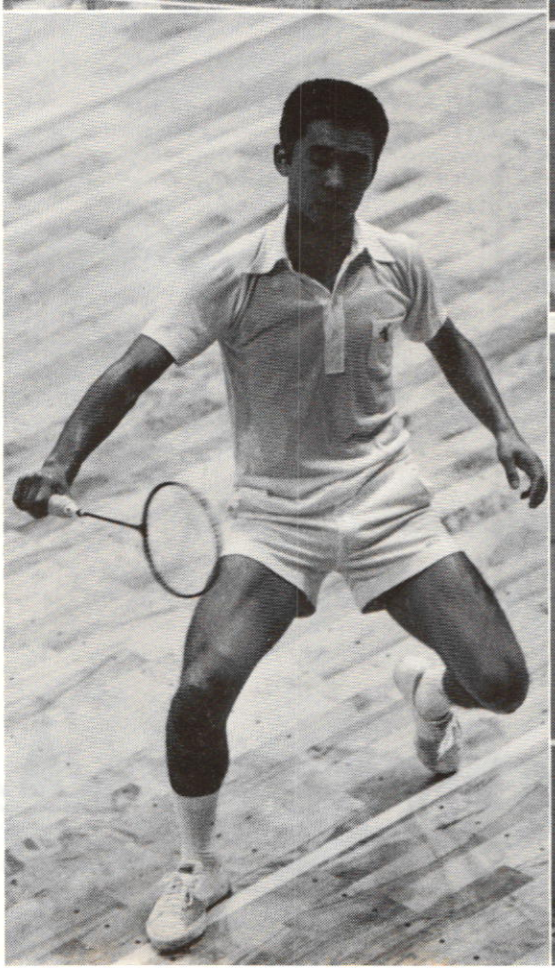


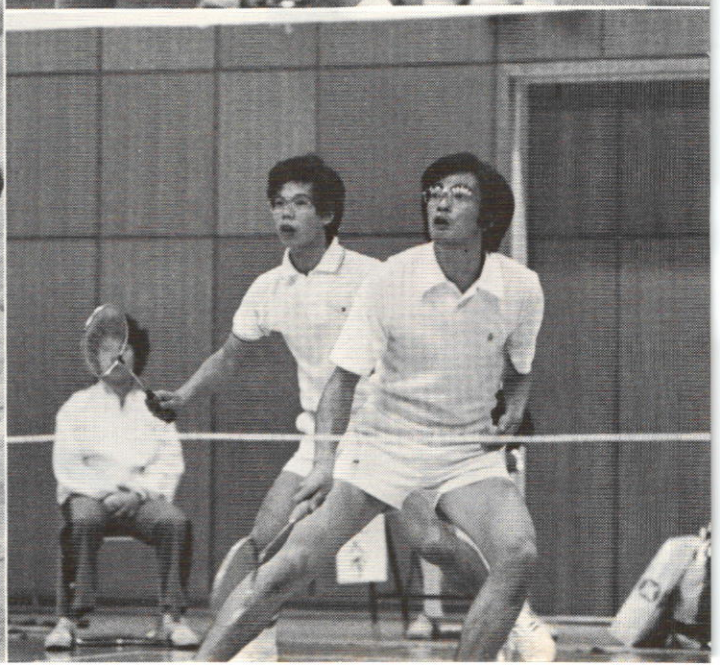
上位入賞はならなかったが……













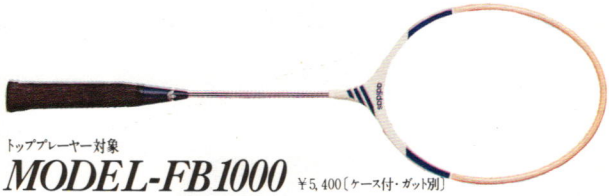

好評発売中

# BADMINTON RACKET

スポーツシューズを始め、スポーティンググッズの幅広い分野で今や世界を独走するadidas®。そのスポーツを知りぬいたadidas®の本格バドミントンラケットが今、多くのファンを集めています。素材の持ち味をくまなく生かした各パーツ。バドミントンを徹底科学した機能的なフォーム。もちろん一流プレーヤーの『ここをこうしたい』という熱望をすみずみに取り入れたadidas®。パワーとテクニックを見事に両立させた最新鋭の1本1本、いち早く馴染むのがライバルを泣かせる秘訣。

## バランスの良さ。なじむグリップ。この軽さ。デビューが待たれたadidas®の1本1本。





トッププレーヤー対象

### MODEL-FB1000 ¥5,400〔ケース付・ガット別〕

⊙テーパードシャフト先細・手元太でロングなシャフト。思いきり振りきれ、素晴しい球離れが特長です。⊙フレーム 柔軟性と剛性をあわせもった合板フレーム。ガットが張りやすく、同時にガット張りによる変形がないのが決め手です。素材は特に厳選された高級木質材。⊙グリップ 手にしっくりと馴染む高級牛皮グリップ。●グリップサイズG2(太)・G3(中)・G4(細) ●重さ(ガットなし)L〔120g以下〕M〔130g以下〕H〔130g以上〕



プレーヤー&一般対象

### MODEL-FB2000 ¥3,400〔ケース・ガット付〕

⊙ストレートスティールシャフト ⊙フレーム やはり強度と柔かさを兼ねそなえた合板フレーム。吟味された高級材質の堅さがラケットの変形を防ぎます ⊙グリップ 牛皮を使用し触感、密着感に優れています。 ●グリップサイズG3のみ ●重さMのみ



一般&ビギナー対象

### MODEL-FB3000 ¥2,500〔ガット付〕

⊙ストレートスティールシャフト ⊙フレーム 丹念にセレクトされた木質素材の合板フレームで強度を確保しました。⊙グリップ グリップには手に馴染みの良い牛皮を使用● グリップサイズG3のみ● 重さMのみ

adidas®

MADE UNDER ADIDAS LICENSE

● お求めはadidas特約店で。

製造業者 KG 兼松江商株式会社 発売元 KSG 兼松スポーツ用品株式会社 〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3 ☎06-305-1431 〒101 東京都千代田区内神田1-11-13(橋本ビル) ☎03-295-5611

carlton

# New Badminton Racket




●PHOTO カーボニック・ブラック

●PHOTO ニュートーナメント




## 威力壮烈!

20世紀最後の素材といわれる理想の繊維カーボン。繊維に対して直角の方向に、驚ろくべき強さをもち●たわみに富む●するどい弾性とすばやい反発力を生む●しかも耐久性に強い……という最高の条件を備えています。

metro

総発売元 メトロレジャー株式会社 〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

# 魔の金曜日

H・A・シェーラ
友枝　康子　訳

本誌9月号で「ふりだしに戻った台湾問題」として、混迷する国際情勢について簡単にお知らせしましたが、このたび英国高等法院の判決文を入手いたしましたので、ここに全文を紹介します。また、この判決文の掲載された「ワールド・バドミントン」誌7―8月号から、同問題に関する解説および、同誌編集人のH・A・シェーラ氏の論説「魔の金曜日」も併せて紹介します。

バドミントン界、とりわけ国際バドミントン連盟は、五月六日金曜日、その名誉にかかわる手痛い挫折を味わった。この日、バドミントン競技の世界的統合機関IBFの年次総会で、連盟会長は、会員登録の再申請を行わなかったために、台湾バドミントン協会はその会員資格を失った、と宣言した。この宣言は、連盟規約の明確な規定を無視し、かつ、総会出席者からの抗議をも無視して出されたものであった。

これは、バドミントン競技界の運営にとって、まさに「魔の金曜日」であり、四十三年になるIBFの歴史はじまって以来の不祥事であった。

この宣言およびこれに至る経緯は、政治に起因するものであることは言うまでもなく、各種スポーツ界の運営が、増大しつづける財政援助によって左右されている現実を表わしている。自国のスポーツ団体に、その政治方針の積極的支持を要求している各国政府は多い。その団体のなかには、政府自ら設立したものもある。こうして、バドミントンは別におくとしても、競技そのものの発展にかかわるはずの一般的事柄についてさえも、自由意志での投票を行えないスポーツ団体が各国にはあるのだ。

この号では、IBF会長ステラン・モーリン氏の釈明を載せたいと考えていたが、法的に問題が予測されるとして、氏はこの問題を活字にしないこと望んだ。

このような追放という処理は、それに対する所定の規則によるいかぎり、いかなる団体の会員除名も正当とは考えられない。この件では、除名に必要な七五%の票が得られていないわけで、規約に従っていないことになる。

台湾の会員資格停止に対する政治的示唆は、IBFが台湾を会員として認めるかぎり、中国バドミントン協会の加入を許可しないとする、中華人民共和国政府の態度に起因するものである。中国は以前から、台湾はその領土の一部に過ぎないと主張しており、その主張を貫くために、台湾バドミントン協会の追放を実現しようと、多くの国に政治的圧力を行使してきているのである。

この計画は、中国選手によって示されている卓越した競技水準によってさらに増幅され、これが中国の国際舞台への登場への要求を多くの国が支持する結果となった。これは誰しもが強く希望することではあるが、別の国の選手の不参加を代償として要求される以上、すべての支持を得るというわけにはいかない。

# 高等法院判決文

一九七七年七月五日
高等法院一九七七C二七五九号
王座裁判所ロバート・ゴフ判事

原告　シェン・フー・チャン（台湾バドミントン協会ROC主事）、自身ならびに台湾バドミントン協会員を代表して提訴

被告　ステラン・モーリンおよびハーマン・ヴァルケン（国際バドミントン連盟会長および主事）、国際バドミントン連盟およびスチュアート・ワイアットを代表して

原告代理ティモシー・プレストン弁護人および被告代理ヒラリー・ヘイルボーン弁護人の陳述を聴取し、

一九七七年六月二十日付修正の一九七七年三月十八日付原告側要請状を審理し、

判事により、原告側に、要請状中削除の要求による再修正を許可し、これを要請状に添付した。

次のとおり命令し、宣言する。

㈠タイのバンコクにおける一九七六年六月二日、国際バドミントン連盟年次総会において当時会長であった現被告によって下されたとする次の決定は、一九三四年国際バドミントン連盟規則（修正ずみ）に違反する。

a．国際バドミントン連盟における台湾バドミントン協会の会員資格は正規のものではない。

b．台湾バドミントン協会は、一九七七年五月六日、スウェーデンのマルメで開催予定の次期国際バドミントン連盟総会で審議されるよう再申請を行ない、これは新規申請の扱いにより、多数決により採決される。

㈡被告によって一九七七年五月六日、国際バドミントン連盟年次総会において下された前記の決定は、台湾バドミントン協会は国際バドミントン連盟より追放されたと裁決したかぎりにおいて、同連盟規約違反である。

㈢台湾バドミントン協会は、なおIBF会員であり、連盟規則にもとづいて開催される競

中国政府の態度は、また、すべての中国選手がそれぞれの競技での国際的参加を妨げているのである。これはいずれの場においても非常に遺憾なことだ。

台湾バドミントン協会が、この不法な除名に対して、法的措置をとったことは決して驚くべきことではなかったし、また、すでに報じられているように、その主張が全面的に認められたことも驚くにあたらない。

台湾に反対する大半の国は、そのすべてではないが、アジア諸国であり、これらの国からは、アジア・バドミントン連盟の常置委員会を通して、「離脱」の動きや、世界的機構の別途結成の噂も聞かれる。もしそうなっても、望ましくない情勢ではあるが、深刻な事態を予想されるものではない。そのような機構ができても、バドミントン競技界以外からの承認は期待しがたいのである。

# 台湾、勝訴し完全復帰へ

台湾バドミントン協会は、国際バドミントン連盟（IBF）を相手に提訴していた、この五月スウェーデンのマルメにおける年次総会での不法な追放事件で勝訴を得た。

台湾バドミントン協会は、連盟の正式所在地であるロンドンの高等法院に提訴したが、これは、この種の民事訴訟に対する国際裁判所が存在しないためである。裁判長は、台湾の申し立てを全面的に支持し、台湾バドミントン協会はその会員資格を失っておらず、現在も保有していると裁定した。さらに、訴訟経費は、被告側、すなわち、IBF現会長および名誉主事である、ステラン・モーリンとハーマン・ヴァルケン両氏、ならびに、一九七六年当時の会長で、この事件の発端となった「決定」を下したスチュアート・ワイアット氏の負担とすると裁決した。判決全文は別掲のとおり。

## 事件の発端

すべては、一九七六年バンコクでの年次総会において、連盟のワイアット会長の行った異例の「決定」から起こっている。大会では最初、台湾バドミントン協会追放の動議に対して、四分の三の必要票数が得られなかった。さらに討議の後、この協会が三年前、「中華民国バドミントン協会」から「台湾バドミントン協会」に名称変更（この変更は一九七三年総会で承認されている）をしているため、登録の再申請を行って、次の総会で討議すべきである、との決定を下したのである。そしてこの申請が、過半数の採決で否決されるという結果を狙っているのである。

この「決定」が不法であり、連盟規則に反するとして台湾は再申請を拒否した。同時に「決定」の取消しを要求したが果たさず、ワイアット氏、現会長および名誉主事を相手に、決定の無効を求める令状の発行を要求した。

マルメ総会において、現会長ステラン・モーリン氏は、同総会出席者が多数決で承認したバンコク「決定」に、台湾バドミントン協会が従わないことを理由に、同協会はもはや連盟の会員ではないと宣言し、その代表の退場を要求した。この総会の後、何度か召換が行われた。

## 今後の問題

判決のあと開かれた連盟の特別理事会では、裁判所の裁決は尊重されねばならぬ点で合意は得られた。理事会は他に方策を持たず、九月二十九日、ロンドンで臨時総会を召集することを決めた。

この総会の議事予定には、連盟規則を遵守した台湾バドミントン協会の除名という議題があがっている。この動機の通過には、七五%以上の賛成票が必要である。議事予定には、理事会としてこの動議に賛成なわけではないのだが、まったく政治的な争いであるこの問題に終止符を打つための進展をはかりたいだけだという釈明がつけられる予定だ。

台湾バドミントン協会としては追放される理由は皆無であり、投票結果は前回とあまり変らないだろう。すなわち、七五%を越えないと推定される。

当初から、台湾追放に対する動議はすべて、中華人民共和国バドミントン協会をなだめて、「無条件」で入会申請ができるようにという希望からだった。台湾が会員であろうとなかろうと、中国には入会資格があるとの指摘を受けるかも知れないが、中国政府は、台湾を認めている国際連盟にはいっさい、中国競技団体の加入を認めることを拒否しているのである。（訳・友枝康子）

技への全面参加を含むすべての権利を保有する。

さらに、被告ならびにその代理人は、拘束をうけ、法の範囲内において、台湾バドミントン協会の国際バドミントン連盟からの意図的な追放を実施するいかなる行為も拘束される。

またさらに、本訴訟の費用は査定の上、被告より原告に支払われるものとする。なお、ケア判事により一九七七年五月三十日保留とされた費用も含めるものである。

（本件は、法廷において、一九七七年七月四日、四時間五五分、すなわち、一〇・三五AMから一〇〇PMまでおよび二・〇〇五PMから四・〇〇PMまで、ならびに、一九七七年七月五日、一〇・三五AMから一一・一〇AM、を要した）（訳・友枝康子）

## ㊊ガッツ小島の体当り実戦教室 ―― 8

# ヨーロッパ初遠征

●小島一平

## ●恐しい腕つぷし、ハイバックの強さに眠れぬ夜

私の最初の海外遠征がインドネシアであったし、その後、東南アジア専門であったことは現在考えてみると、非常にプラスであった。というのは、東南アジアの場合は、まず暑さに勝たねばならない。それと同時に、大観衆の中のエキサイトした歓声と喧噪の中でのプレーは、想像に絶する闘いであるから、プラスアルファーが要求されるのである。

最初の頃は、その雰囲気に完全にのまれ、実力では自分より下の相手に、何度も苦汁を飲まされたのである。やはりその原因は、精神的に弱かったことと、また経験が浅かったこと。要するに結論は、練習で勝てても試合で負けるという感じで、本当の実力ではなかったということである。

ヨーロッパに関しては、秋山氏から多くのことを教えてもらい、だいたいのことはわかっていたが、やはり初めての国への遠征は緊を隠せず、期待と不安感のまま機上の人となった。

まず、全英の前哨戦であるデンマーク・オープンへ参加すべく、コペンハーゲン空港へ到着。さすがに長時間の空の旅で、疲れを覚える。コペンハーゲンは、日本の札幌と位置を同じくしている所。三月初旬といっても、まだ雪が積り寒さは厳しい。ホテルへ直行して早速朝食をとり、その後シャワーを浴び、ひと眠り。昼頃起床し、体慣らしのランニング。

街へ出ると珍らしさも手伝って、走るというより、キョロキョロしだす始末。しかし、東南アジアの暑さの中でのトレーニングよりは、ずいぶんと楽である。

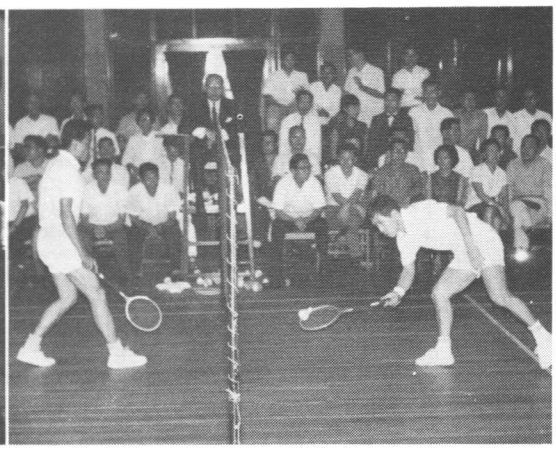
日本ではオールシーズン、バドミントンに親しんでいるが、ヨーロッパでは10月～4月とだいたい決まっており、シーズンオフはバカンスを楽しんだり、一時ラケットを手から離すそうだ。しかし、ここ数年は各国の招待試合など選手権大会が多くなり、なかなか休む機会がないようである。

翌日、バドミントンクラブで練習。決して大きな体育館ではないが、コートが横一列に並び、五面ぐらい。観客席などはなく、カマボコ型である。横一列だと両サイドとも同じ条件で試合ができるので、とても気持が良い。コートでは、老若男女を問わず、楽しそうにプレーに興じている。練習会場はクラブであるので、われわれだけが長時間独占するわけにはいかない。クラブ員は、何日の何時から何時までと申し込んでプレーしているので、彼らのせっかくのコートを奪うことはできない。

さていよいよ、試合前の開会式というより軽食の集いがあり、まず驚いたのはヨーロッ



たび重なる遠征で外国の友人も数多くできた



このアジアでの経験がヨーロッパでもずいぶん役に立った

パの選手、特にデンマークの選手がビールをガンガン飲んでいるではないか。試合前だというのに、私も飲める方だが、その私が驚いたのだから察しがつくと思う。全然固苦しい会ではなく、初参加の選手を紹介し終了。さすがヨーロッパは進んでいるという感じ。

試合はシングルスから始まり、私はデンマーク選手の強さなど知らず、一回戦は楽勝かと思っていたら、なにせ身長もさることながら、リーチの長いこと、打っても打っても変幻自在のレシーブ。私がネット前かと予測すると後方へ、はたまたその逆となる具合に翻弄され、いつしか自滅。いやはや試合が終ってみて、秋山氏が最初とまどったのがようやくわかった次第である。

その夜反省したことは、非常に腕っぷしが強いということ、ふところが深いので決まったと思ったショットをいとも簡単にレシーブされてしまう。日本の選手ならば、バックの奥深く追い込まれた場合は、鋭いリターンはまずないが、彼らはシャトルを呼び込むと同時に、その丸太ん棒の腕からスピードあるハイバックを打ち、一発でまた後方へ押し戻してしまう。一瞬あ然としたその一発に、平常心を失うと同時に、自信喪失となり、泥沼へ落ち込んだ。先行き不安で、その夜は眠れず大変弱った。

## ●ダブルスで無欲の勝利

さて翌日はダブルス。とにかくここではもう開き直り、勝敗は二の次と気楽に、相棒の西野君（たしか彼も一回戦で負け、われわれとしてはスタミナが余りすぎるほど余っていたのである）と試合に臨む。

こうなっては粘り抜く以外なく、技術的に云々するまでもなく気力プラス体力あるのみである。まるで特攻隊。これがまた面白いもので、とんとん拍子に準決勝へ、そして決勝へ。地元のコプス・ボーチ組と対戦することになった。決勝へ進むこと自体嬉しくて、とても優勝などと考えもせず、メインコートの一面で試合できるだけで光栄であった。

試合は、われわれ二人がダイビングレシーブをたびたびせねばならぬほど厳しいラリーの応酬で、観客は大いにわいたが、日本の若僧にまさか不覚をとるとは思わなかったに違いない。

しかし、相手は接戦になると次第に焦りが出て、こちらは無欲の強味、遂に信じられない優勝が転がり込んできたのである。

初参加で優勝できたことは非常に運が良く、また私にとっては大きな自信となった。

# エッコのバドミントン・ライフ ⑦

# 異国の地で、高木組に初勝利

栂野尾悦子

初めてのマレーシアオープン選手権大会で、高木（現中山夫人）・湯木組との決勝を迎えた私達。合宿では一度も勝ったことがなく、作戦も浮かばないまま、刻々とコートインの時間が迫ってきた時のこと。たった今終了した女子シングルス決勝で、湯木さんが、高木さんに公式戦で初めて勝つ殊勲をあげ、その興奮を目前にした私達に、モクモクと勝ちたいという欲がわいてきたのです。何かしらやれそうな気がしてきたのです。これがかけひきを知らぬ若さの強味とでもいうのでしょうか。

人の熱気とざわめきでムンムンしているコート上でいよいよダブルス決勝の始まりです。

今でも当時の一コマ、一コマが思い出せるほど息をのむラリーの連続でした。とにかく、向かってくるシャトルを無我夢中で返しに返したのです。決めるつもりの配球をスパスパ何なく返球され、それもこれも飛びついたりころんだりして拾いまくったのを覚えています。気がついた時には、ゲームセットのコールがされていたのです。これまでのバドミントン生活の中で、初めて集中しきるということを知ったゲームでした。15—11、15—10のこのカウントは、後にも因縁深い数字であることを、9年たった今も、感慨と共に忘れることができません。

南十字星の輝く異国の地で初勝利。銀製のトロフィーを手にした私達は、試合直後のガーデンパーティで、興奮がさめやらぬまま、うれしさのあまり、テーブルに盛られた料理を手あたりしだい口にし、水物には気をつけろといわれてきたのもすっかり忘れ、ジュースをガブガブ飲んだのです。有頂点になって喜んだのもつかの間、数時間後、私に痛い戒めの天罰が下ったのです。夜中に腹痛と寒気が襲い、ベッドが暖まる間もなく、洗面所との往復が夜通し続いたのです。

朝、現地のお医者さんに診察してもらったところ、暴飲暴食による急性大腸カタルということでした。何て恥ずかしいんでしょう。まだシンガポールオープン、タイ、香港での

マレーシアでの初の国際試合に優勝した私たち




試合の合い間にこの旺盛な食欲

招待試合が残っているというのに。知らない土地で病気になることほど心細いものはないですね。思うように意志が通じない上に、じっとベッドにうずくまっているのはみじめという他ありません。もっと英会話の勉強をしておけばよかったと悔やんだものです。相手の言うことがどうにか理解できても、すぐには答えられずあわてて、イエス、ノーで終わってしまうのです。三日間、部屋に閉じこもった末、どうにか練習できるようになった頃は、もうシンガポールオープンが始まり、二回戦で早々に敗退し、腹立たしさと、パートナーへの申し訳なさが残るばかりでした。

この時決心したのです。もう二度とこんな苦い失敗はしないでおこう。選手は何よりもコンディショニングが大切なのだ……と。以来、どの遠征にも、一度も風邪をひいたり、おなかをこわしたことがないのは、よほどこの時骨身にこたえたからでしょう。

日本を離れて一週間も過ぎると、そろそろホームシックにかかり、ホテルのジュークボックスから、胸にジーンと響くようなメロディが流れてきたのです。「卒業」のテーマ曲「サウンド・オブ・サイレンス」と、「ラスト・ワルツ」でコンブ（相沢マチ子さん）も私も、すっかり気に入ってしまい、時間さえあればコインを入れて聞いていたので、地元の選手のタン・アイク・ハン、ウン・ブン・ビー、タン・イーカンらも、一緒になって口ずさんだりしていました。（あとで、彼らが当時の全英シングルス、ダブルスのチャンピオンと聞き、新米の私達は感激してしまいました。）その後、全英などで彼らと顔を合わせると、プレーのアドバイスをしてくれることもありました。

さて、第三の目的地タイでは、シリキット王妃の御臨席を得て、印象に残るエキジビションマッチでした。

うす暗い会場は、風が舞い、緊迫したラリーが続くと、観客のざわめきが突然、熱狂の嵐へと変わってゆくのです。1ゲーム先取した私達は、2ゲーム目、あれよあれよという間に、13―0まで連取されてしまったのです。会場の雰囲気になれ、フッと気が抜けた途端のできごとだけに、あせるも何も一瞬ポカンとなり、こりゃあいけない、何はともあれ、相手より先にミスをしてはおしまい、一本ずつゆっくりばん回しなくてはと互いに気を入れ直したのです。こうなったらよそ見などしていられない、周囲は全くの別世界、ただコートのシャトルと相手を見つめて向かってゆくだけです。そして、とうとう13オールまでこぎつけ、ここまできたらあとは5ポイントを一気にダッシュで通過してしまいました。あとにも先にもこれきりのことです。

タイは水上生活者が多く、タタミの上しか知らなかった私には、こんな生活もあるのかとさまざまな思いが去来しました。彼らは外国のことを知ることもなくたぶん知ろうともしないで一生を過ごすのでしょう。裸足で歩く人、物乞いをして生きる人。私の知らない世界が、生活がまだまだあるのです。この時、日本で生まれ、日本で育った自分は、何て幸わせなのだろうと言いようのない感銘を異国の地で味わったのでした。水上で生活する人達をあわれとさえ思ったのです。思ったすぐ後に、何て一人よがりな考え方だろうと恥ずかしくなりました。彼らは彼らなりに、自分達の分を知っているのです。そして、その中で精一杯生き、幸せになろうとしているのだと思ったのです。『百聞は一見にしかず』まちにそのとおりです。

無事に帰国した私達の目前には、もうインカレ（全日本学生選手権）が待っていました。海外遠征に参加できたこと、高木・湯木組に勝てたこと、それらの経験は二人にとってほのかな自信でもあったのです。しかし、インカレの決勝では、裕・湯木組にあっさり敗れ、自信というのは自分達だけのうぬぼれでしかなく、実力というには余りにも小さすぎることを、私達の前に、まざまざとたたきつけられた思いがしました。

全日本総合選手権まで、あと一ヵ月半。初めてのオールジャパンに向かって、新たな練習が開始されたのです。（つづく）

# ファッショナブル・スポーツ——バドミントン。

## 厳選された豊富さでお応えいたします。 BADMINTON

ファッション性とスポーツ性——この2つをより合わせ持つファッショナブル・スポーツーバドミントンの感覚を肌で感じにいらっしゃいませんか——ノ

色あざやかにそして機能性も豊かなウェアやバッグなど——バドミントンのすべてが常にフレッシュな状態でスタンバイ。

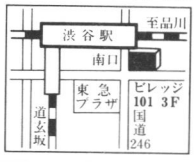
## 日本最大の専門店 ウインザー ラケットショップ。

毎月曜日定休・祝祭日を除く

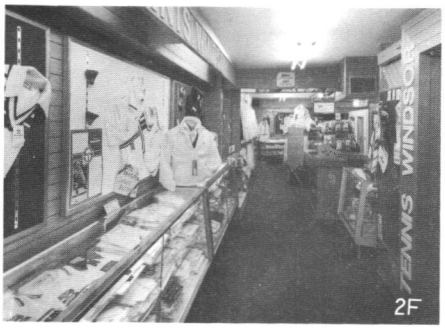
### 渋谷店

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7(ビレッジ101ビル3階) TEL 03-464-9251~2 〒150

●営業時間／午前10時~午後7時30分





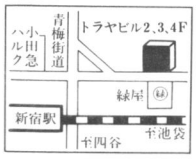




毎月曜日定休・祝祭日を除く

### 新宿店

東京都新宿区西新宿7-10-20(トラヤビル2,3,4階緑屋前) TEL 03-363-6848 〒160

●●●営業時間／午前10時~午後7時







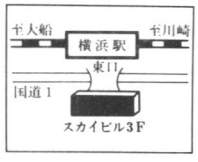


年中無休

### 横浜店

横浜市西区高島町2-1 横浜駅東口(スカイビル3階) TEL 045-461-1785 〒220

●●●営業時間／午前10時~午後8時




WINDSOR RACKET SHOP

カワサキラケット
河崎ラケット工業株式会社

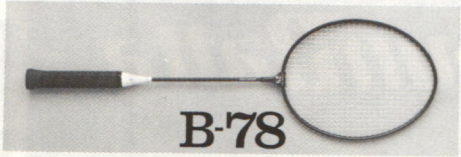
# ドラマが始まる。




# 世界が燃える。

イギリス、デンマーク、インドネシア…
世界のコートで実力を発揮し、活躍するカワサキ。
数々の勝利のドラマを生み、
トッププレーヤに注目され続けています。

アルミ、クロームモリブデン、アルミ合金ダイカストを採用。
それぞれの特性を充分いかした軽く、弾力性豊かな新製品です。




No.B-78/セブンエイト/モスグリーン(アルミフレーム)
フレーム価格6,000円(ケース付)

いま うわさの……




SUPER RUSH

**S-76 スーパーラッシュ**

極細の特殊加工スチールテーパーシャフト使用。
反発力が一段と増し、抜群の攻撃力が生まれプレーヤーの持っている力を十二分に発揮出来るすばらしいパートナーが出現しました。

*play with...*

SunBatta

# "我が子"とともに十年

## ――社会体育クラブを指導して

熊本バドミントンクラブ　葦原　健身

私は一社会体育バドミントンクラブの指導者である。かれこれ十年、青少年達の指導を続けているが、まず、なぜ社会体育の指導をするようになったか、その経緯から話を進めたいと思う。

昭和四十三年大学卒業後、請われることあって、K高校のコーチをすることになり、燃える気持を持って指導にあたったが、現実には笛吹けど踊らず、気持が空回りする毎日であった。当時は高校からラケットを握る者がほとんどで、選手層も薄く、県のレベルも低く、悔しい思いをしていた。しかしながら当面はキャリアの浅い選手でもって戦わねばならず、また試合をすれば勝ちたいのが人情で、そのため無理を承知で朝・昼・晩のクレージーな練習を課せたものだった（僅かの可能性に賭けていた）。

しかしこんな無茶が長続きするわけはなく、三十数名の部員が一年後には五～六名までになり、部員・学校当局および父兄からの苦言によって切腹とあいなった。

暫く冷却期間をおいた後、自分なりに考えた結論は「小学生からラケットを握らせれば無理せずにできるのではないか」ということであった。たまたま小学校勤務であったので、人材は身近にいるのではないか。とはいうもの、体育館はなく、ラケット一本、シャトルの一個あるわけではなし、学校から予算がおりるわけでなく、はたと困ってしまった。

しかしここで折れたら男がすたると思ったわけでもないが、ボーナスを利用し用具を揃えることにした。それから体育の時間をできるだけ頂き、バドミントンの紹介に努めた。

そうして昭和四十五年春、正式に小学校のクラブとして発足したが、例によって予算の補助や体育館のないクラブなので随分苦しい思いをした。練習は風が吹けばダメ、雨が降ればダメ、晴でもダメ（太陽がまぶしい）ということで体育館確保、それから資金面問題の解決に迫られた結果、一年後社会体育クラブへの脱皮を図ったのである。

こうして昭和四十六年五月二十三日、社会体育西合志中央バドミントンクラブは発足した。体育館はN中学校をクラブ活動終了後使用させていただくこととなり、また予算面は町から五万円の補助を受け、会員から月三百円の会費を徴収することで出発した。

こうして練習の成果は着々と上がり、一年後には県小学生大会で優勝するまでになり、以後は参加すれば必ず好成績をおさめるようになった。

昭和四十八年、初めて本クラブから、全国中学生大会へ参加することになり、男子二名（現九州学院上村・宮本両君）を連れて臨んだが、全国の壁は厚く、九州大会では優勝したものの、三回戦敗退であった。

時を同じくして小学生会員も県内大会で大活躍をするようになり、この子たちをして明日のチャンピオンへと思いたったのもこの頃であった。

昭和四十九年、再び県男子チーム監督として、十分な期待を持って全国中学生大会に参加したが、またも三回戦敗退であり、我が指導力の不足を痛感した次第である。

敗退の原因は多々あるが一つにシャトルの問題が上げられる。なぜならば、全国大会は陸鳥であるにもかかわらず、常時の練習、県内大会は水鳥であり、九州大会はナイロンシャトルという具合に一定せず、選手はその都



熊本バドミントンクラブの人々（最後列右から6人目が筆者）

度非常にとまどいを感じていたし、また陸鳥が手にはいりにくかった（関係者に一考してもらいたい）。

クラブ運営も三年たち四年たち、万事順調と思っていた矢先、女子会員の大部分が退部すると言い出し、私も随分頭を悩ませ、父兄の方にもご迷惑をおかけした。考えれば練習のエスカレートもさることながら、お互いの意志の疎通が十分でなかったことを反省するとともに、思春期の子どもの心理を知った思いであった。

この件も父兄のご協力で一件落着したが、それ以後「雨降って地固まる」とでもいうか、子ども達にも自覚ができたように思えるのは私のひいき目であろうか。

昭和五十年、本クラブから初のチャンピオン（女子）が出た。高峯㈱（現熊本中央女子高）であるが、彼女は小学校・中学校時代を通じて全くの無名選手であったが、予選三位で滑り込みセーフで代表となってから、俄然ヤル気をみせるようになり、今日に至っている。

昭和五十一年八月、全国中学生大会において男子優勝（井上）女子三位（高峯㈱・中村）となり、高校男子二名が国体代表に決定し、皆の意気はますます高まった。

昭和五十一年九月、クラブは青少年の体力増進を図り、スポーツ愛好の精神と技術の向上という目的のため、組織を拡大し、熊本バドミントンクラブと名称を変更した。

現在クラブは一般・高校生・中学生・小学生約四十名からなり、明日のチャンピオンをめざす者が集まってくるが、われながらよくもこの愚かな指導者についてくるものだと感心している。

最近は各大会において優勝を独占するようになり、昭和五十二年三月、全国高校選抜大会で男子団体優勝（九学…上村・宮本）、男子単一位（上村）、女子単二位（高峯㈱）、八月全国高校インターハイ男子単三位（宮本）全国中学生大会男子優勝（井上）、女子優勝（高峯㈱）、団体代表六名と続き、所期の目標は一応達成されつつある。もちろん県協会各関係者のご協力の賜物であることはいうまでもない。

次に二、三の問題点をあげてみたい。まず第一に社会体育の振興および日本スポーツ界の低迷が叫ばれている今日、選手養成を学校から社会体育の場へ移すことはバドミントン界のためプラスかマイナスか（学校は一部のスポーツ選手養成の場ではない。また一環した指導を学校クラブではできないならば、社会体育の場か民間クラブしかないと思うが）。

第二に「種を蒔き苗を育てよ」とはよく耳にする言葉であるが、はたして誰が種を蒔き、誰が苗を育てるのだろうか。一部の情熱者の善意と奉仕にたよっていればバドミントンは発展するのであろうか（あなた任せや協会の傍観が気になる）。この他シャトル（値段）、登録（クラブか学校か）、遠征旅費（公費補助か受益者負担か）、指導費（奉仕による無料が多い）の問題など、解決すべきものは多い。

またスポーツにはチャンピオンシップをめざす道、レクリエーションの道の二つが考えられるが、西ドイツのゴールデンプラン的なものを必要とする時期にきているようである（行政の協力がほしい）。

社会体育クラブの指導者としていろいろな問題をかかえ、孤独と悩みの連続であるが、ご父兄方の共感を得られたことを喜び、ひたむきな子どもの顔が忘れられず、「我が子」と思い叱咤するバドミントン中毒患者の今日この頃である。

# 〝とろうと思わんけん とれんた!!〝

## ＝私たちのクラブ＝

熊本バドミントンクラブ・主将　高峯和子

私達のクラブは、全部で43名のクラブです。下は小学生二年生から、上は高校生までという、仲の良いクラブです。下級生は上級生を、「おにいちゃん、おねえちゃん」と呼んでいて、本当の兄弟のようです。そしてそういうふうに言われる私達上級生も、下級生をかわいがっています。

熊本クラブの練習内容は、まずハードなトレーニング。これが私達にとっては、一番厳しい練習の一つです。天気のいい日には、外に出て体操をします。その時、号令の声が小さいと、何回でもやり直しされるというように、いつも緊張の連続です。体操が終わったら、運動場をランニングです。一周三百メートルの運動場を十周みんなで競争とか、二十周走るとか、またはロードワークとか、どれもみんな苦しいトレーニングです。でもたまに、サッカーやバスケットをします。こんな時は、少々苦しくても、みんな楽しくやっています。

魔のトレーニングが終わると、運動場から体育館に上がり、ネットを張り、基本練習ですが、これもネット張りをぐずぐずしていると、先生からカミナリが落ち、時には、ウサぎ飛び、アヒル歩き、ダッシュなどをさせられます。だからみんなで協力して、すばやくネットを張り、先生の前へ集合です。それから基本練習へと、はいるわけです。

まず自分のウィークポイントから先にし、できるのはあとでやるというような方法です。約三十分ぐらい基本練習をやると、先生から指示されたことを、さっさとしていきます。オールロング、オールショート、スマッシュアンドネット、バックハンドの一点返しなど、その他もろもろです。そこで気合いがぬけていると、先生からゲンコツやビンタを打たれます。打たれて腹が立ち、もうしたくないという誘惑にさそわれますが、下級生もいるし、ここで投げ出してはみっともないと思い、最後までガマンして、やり通します。

しかし、先生からオールロングなどでまわされる時、私達が何回もノータッチをすると、「とる気はあっとかい」と大声で注意されます。注意されるまではいいのですが、何度もノータッチをすると、先生は叱る気力もなくなって、いすに座って、もうまわしてはくれなくなります。そんなとき、なぜとれないんだろうと必死に考えます。でも考えるだけでシャトルをとろうと思っていても、実行できなければ何にもなりません。先生にいつも、「とろうと思わんけんとれんた。絶対とってやると思え」と言われます。私もその通りだと思います。もう少し気をひきしめて、プレーをしたいと思います。

熊本クラブの目標は、試合に出て優勝するということです。そのために毎日毎日、苦しい練習に耐えているわけです。

それから、あいさつ、そうじ、動作をきびんにするということなども、きちんとしています。

こういうことも、バドミントンをするうえで大切なことだと思います。バドミントンばかり強くなっても人間的にダメだったら、何にもならないからです。この二つがそろってこそ、良いプレーヤーになるのだと思います。私達の先輩には、九州学院の宮本、上村、田中先輩、熊本中央女子高の高峯(彰)、安武先輩がいらっしゃいます。私達も先輩方の後に続き、良いプレーヤーをめざして、頑張りたいと日夜練習に励んでいます。

私達のあとに続いて、来年も全国大会で優勝してほしいと願っています。最後になりましたが、こうして練習できるのも指導の先生、父兄の皆さんのおかげだと思います。このことに感謝して、これからも力の限り、頑張りたいと思っています。

◆原稿をお寄せくださいました熊本バドミントンクラブの方には記念品を1月10頃お送りします。（編集部）

12月14日～18日・東京

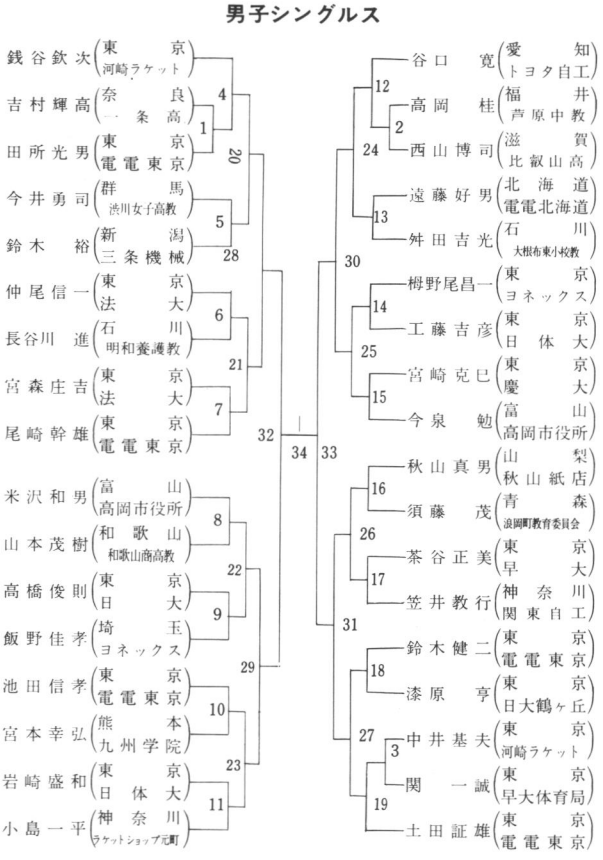
# オールジャパン（昭和52年度全日本総合選手権大会・個人戦）組合せ決まる

昭和52年度の最後をかざるオールジャパン＝全日本総合選手権・個人戦は、12月13日の開会式につづいて、14日から18日まで東京で開かれるが、その組合せが別表のとおり決定した。

この大会は、最終の二日間、国立競技場代々木第二体育館で、各種目の上位戦が行われ、今年は例年になく白熱したものとなりそうであり、好試合が期待される。

**〈シングルス〉**

昨年のチャンピオン銭谷（河崎ラケット）は、ベスト4入りで尾崎（電電東京）と対戦することになりそうだが、よほどのことのないかぎり安泰であろう。その下のヤマは、小島（ラケットショップ元町）と飯野（ヨネックススポーツ）がベスト4入りで激突する。池田（電電東京）もおり、今大会一番の激戦区となっている。谷口（トヨタ自工）のヤマは、国体で頑張りをみせた舛田（石川）、高校チャンピオンの西山（比叡山高）、ベテラン栂野尾（ヨネックススポーツ）、そして粘りのプレーヤー今泉（高岡市役所）、学生界の宮崎（慶大）がおり、これまた大変な激戦が予想される。残る土田（電電東京）のヤマは、大ベテラン秋山（秋山紙店）、中井（河崎ラケット）、関（早大体育局）、笠井（関東自工）がいるが、土田のベスト4入りはま



ず、固いところ。

一方女子は、湯木（河崎ラケット）は別格として、だれが挑戦権をつかむかに興味がしぼられる。高田（サントリー）対千葉（河崎ラケット）、西尾、徳田のサントリー同士の対戦、ユ杯選手の近藤（日女体大）対植野（四条畷短大）の学生対決など、楽しみの試合がつづく。

**〈ダブルス〉**

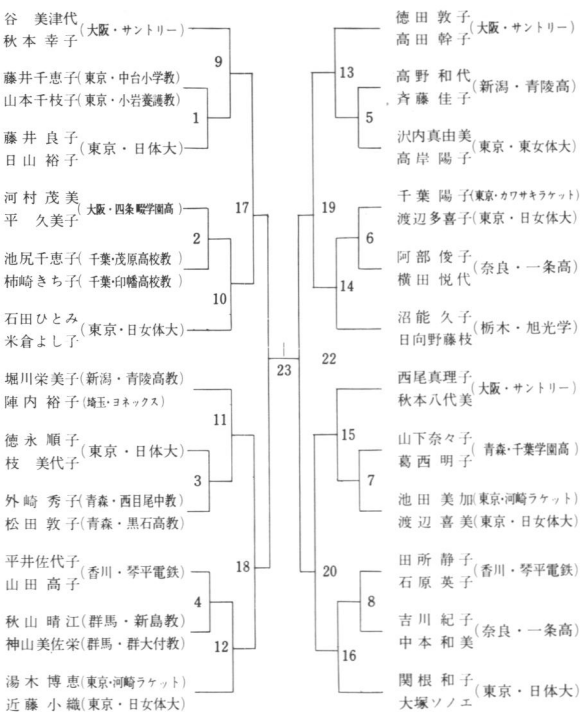
池田・栂野尾（電電東京・ヨネックススポーツ）、飯野・土田（ヨネックススポーツ・電電東京）の決勝進出を、尾崎・辻（電電東京）、銭谷・中井（河崎ラケット）らのフレッシュコンビが阻止するかどうか。

女子は、湯木・近藤（河崎ラケット・日女体大）が、決勝へ進出して、徳田・高田のサントリーコンビと対戦すれば面白い。

混合は、今井・池田、中井・千葉、堺・湯木の河崎ラケット勢が上位を占めそうである。

長谷川ら中央大学の選手が、試験と重なって不参加なのは、非常に残念である。

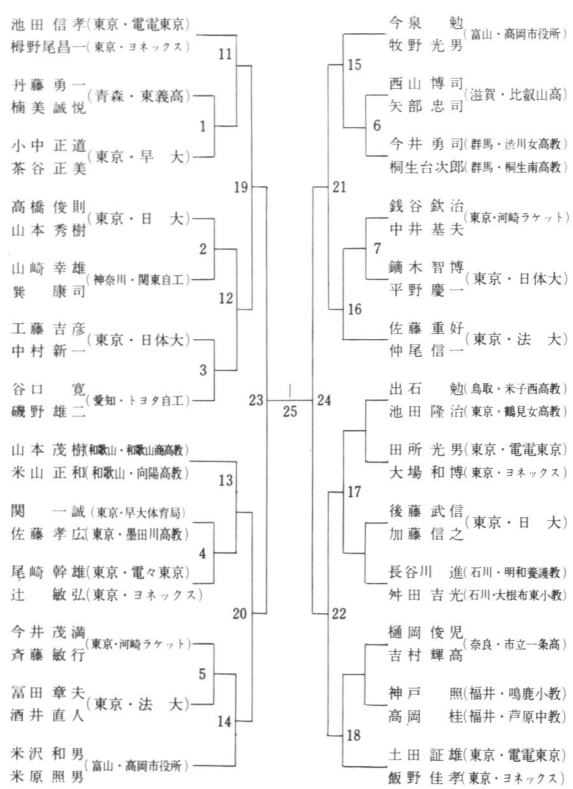
## 女子ダブルス




## 混合ダブルス




## 男子ダブルス



# 1978年全英選手権、デンマークオープン、視察団募集中!!

## 旅行期間：昭和53年３月８日(水)～３月21日(火)<14日間>

## 総費用：￥398,000（トラベルローンご利用可）

このたび日本バドミントン協会では上記バドミントン視察団を企画、主催いたします。
世界の檜舞台で活躍する日本選手団を応援し、あわせて全世界の優秀選手のプレーを観戦する絶好のチャンスではないでしょうか。
皆様のご参加をお待ちしております。

### <ご 日 程>

| 月日（曜） | 地名 | 現地時間 | 交通機関 | 予定 |
|---|---|---|---|---|
| 昭和53年<br>３月８日(水) | 東京発 | 夜 | 航空機 | （機中泊） |
| ３月９日(木) | コペンハーゲン着 | 朝 | | 着後：コペンハーゲン市内観光<br>夕方：デンマークオープン<br>準々決勝観戦<br>（コペンハーゲン泊） |
| ３月10日(金)<br>～<br>３月11日(土) | コペンハーゲン | | | デンマークオープン<br>準決勝＆決勝観戦<br>（コペンハーゲン泊） |
| ３月12日(日) | コペンハーゲン発 | 夕 | 列車 | （車中泊） |
| ３月13日(月) | パリ発 | 朝 | | 着後：パリ市内観光<br>（パリ泊） |
| ３月14日(火) | パリ | | | 一日自由行動<br>（パリ泊） |
| ３月15日(水) | パリ発 | 夜 | 列車とフェリーボート | （車中泊） |
| ３月16日(木) | ロンドン着 | 朝 | | 着後：ロンドン市内観光<br>（ロンドン泊） |
| ３月17日(金)<br>～<br>３月19日(日) | ロンドン | | | 全英選手権観戦＆<br>バドミントンクラブ訪問<br>（ロンドン泊） |
| ３月20日(月) | ロンドン発 | 朝 | 航空機 | （機中泊） |
| ３月21日(火) | 東京着 | 夜 | | 着後解散 |

### 御旅行条件

○総費用にふくまれるもの
(1) 全行程エコノミークラス航空運賃
(2) 各地における空港／ホテル間の特別バス運賃
(3) ご日程に記載の各地市内見学バス、ガイド料金、入場料金
(4) 各地における一級ホテルの２人室（原則としてバス・トイレ付）にお２人の宿泊料金および税・サービス料金
(5) 毎日のホテルにおける朝食および市内見学時の昼食料金
(6) お１人１個づつのスーツケース運搬料金（20kg）
(7) 団体行動中のチップおよび空港税
(8) 全英選手権、デンマークオープンの入場料

○総費用にふくまれないもの：
(1) 海外渡航に要する費用：印刷代、予防接種、旅行保険、手数料
(2) 上記の食事条件にふくまれない食事および全行程のお飲み物代
(3) その他個人的性質の諸費用
（チップ、電話、クリーニング代など）

○全行程に渡り添乗員がお伴して、ご斡旋致します。

※募集人員は35名と致します。尚、お申込み金・お取り消し料及び詳しい御日程等につきましては、別途御用意するパンフレットを御参照下さい。
募集締切日は昭和53年２月８日(水)といたします。
御注意：上記費用は昭和52年10月現在の航空運賃及び地上費用に基き算出してありますので変更する場合がございます。
：上記日程は日本選手団の試合日程により多少変更する場合がございます。

**お問合わせ及びお申込みは**

〒160 東京都新宿区西新宿1-18-8スカイビル内
㈱日本交通公社国内・海外団体旅行新宿支店

担当「1978年バドミントンヨーロッパ視察団」係
木本グループ：大野・小幡 Tel:03-346-2913

**主 催：日本バドミントン協会**

**旅行取扱い代理店：㈱日本交通公社**

国内.海外 団体旅行新宿支店
運輸大臣登録一般旅行業第64号




## 本誌別冊カレンダー

# デザイン一新　好評発売中

**定価1000円**（荷造送料200円）




毎年ご好評をいただいております本誌別冊カレンダーが今年も発行されました。一昨年はモノクロ、昨年はカラーで制作いたしましたが、今年はモノクロ写真を使用し、日付の部分にブルーとグリーンを配したしゃれたものです。しかもグラフィックデザインでは第一人者の野間義剛さんのレイアウトにより、追力の点でもすばらしい出来ばえとなりました。製本はアクリルリングによるタンバリン綴じを採用し、破ることなくご使用になれます。

サイズは本誌の４倍で、上質のケント紙を使用し、お部屋のアクセントになるでしょう。収録選手は次のとおりです。

１月＝柵野尾悦子・植野恵美子、２月＝小島一平、３月＝スヴェン・プリ、フレミング・デルフス、４月＝土田証雄、５月＝ベント・フローマン、トーマス・キールストロム、６月＝池田信孝・柵野尾昌一、７月＝チユン・チユン、ヨハン・ワジュディ、８月＝徳田敦子・高田幹子、９月＝飯野佳孝、10月＝銭谷欽治、11月＝長谷川博幸、12月＝湯木博恵

現在好評発売中で、定価は1000円（荷造送料200円）です。ご希望の方は、はさみ込みの振替用紙に必要事項と通信欄に「カレンダー○部申込み」と明記して、代金（送料を添えて）をお近くの郵便局からお振り込みください。

〒150　東京都渋谷区神南１－１－１　岸記念体育会館

**バドミントン界編集部**

# オールジャパン'77へどうぞ

All Japan
Badminton
Championships

◆12月17日，18日
◆一般 500円
　高校 300円
　中学生以下無料

今年の最後をかざる**オールジャパン'77**が目前に迫りました。

各種目準決勝・決勝は、例年のとおり国立競技場代々木第2体育館で行われます。日時および種目は次のとおりです。

◆12月17日(土)午前9時30分から
**男子シングルス**準決勝・決勝
**女子ダブルス**準決勝・決勝
**混合ダブルス**準決勝
◆12月18日(日)午前10時から
**男子ダブルス**準決勝・決勝
**女子シングルス**準決勝・決勝
**混合ダブルス**決勝

近年にない大熱戦が予想されます。ぜひお誘い合せのうえ、ご来場ご観戦ください。

## 緊急のお願い

去る11月17日、18日の両日、大阪市中央体育館において、全国家庭婦人バドミントン大会が開かれました。

その折、編集部では各種出版物を展示、販売いたしましたが、担当者が取材等で席をはずした間に、無料提供品とお間違えになり、お持ち帰りになった方がいらっしゃいます。お心当りの方は、はさみ込み振替用紙をご利用のうえ、左記代金を至急お送りください。通信欄には、**〝後払い〟**とお書きください。

◆カレンダー＝1000円
◆ヨーロッパ選手に見る実戦テクニック＝500円
◆本誌10月号、11月号＝それぞれ300円。

紛失部数は、カレンダー約30部、ヨーロッパ約20部、本誌約40部です。

ご協力をお願いいたします。

## 編集室から

◆7―0と予想以上の大差がついた、ユーバー杯への第一歩＝対韓国戦、次代をになう学生選手権を中心に今月はお届けします。

◆お気づきの読者も多いと思いますが、10月から本誌の発行日が毎月15日となりました。できるだけ、15日にはお手もとに届くように配送等を調整していますので、ご了承ください。

◆台湾除名→復帰の問題については、IBF（国際バドミントン連盟）機関誌の〝ザ・ワールド・バドミントン〟に、注目すべき特集がありましたので、翻訳のうえ、24ページ以下に掲載しました。

◆毎月大好調連載の「ガッツ小島の実戦教室」「エツコのバドミントン・ライフ」について、一冊の単行本にしてほしいという声が、かなり多くなっています。来年度には、どちらも加筆のうえ、多くの写真とともに、すばらしい単行本とする予定ですのでご期待ください。

また、小島一平さん、栂野尾悦子さんへのご質問、励ましなど、どしどし編集部あてお送り願います。

◆〝われらのクラブ〟にあなたのクラブを紹介してください。会社・学校・地域など、どんなクラブでもけっこうです。写真を添えてぜひどうぞ。

◆それでは、よいお年をお迎えください。

バドミントン界　通巻第98号　1977年12月号　定価 300円

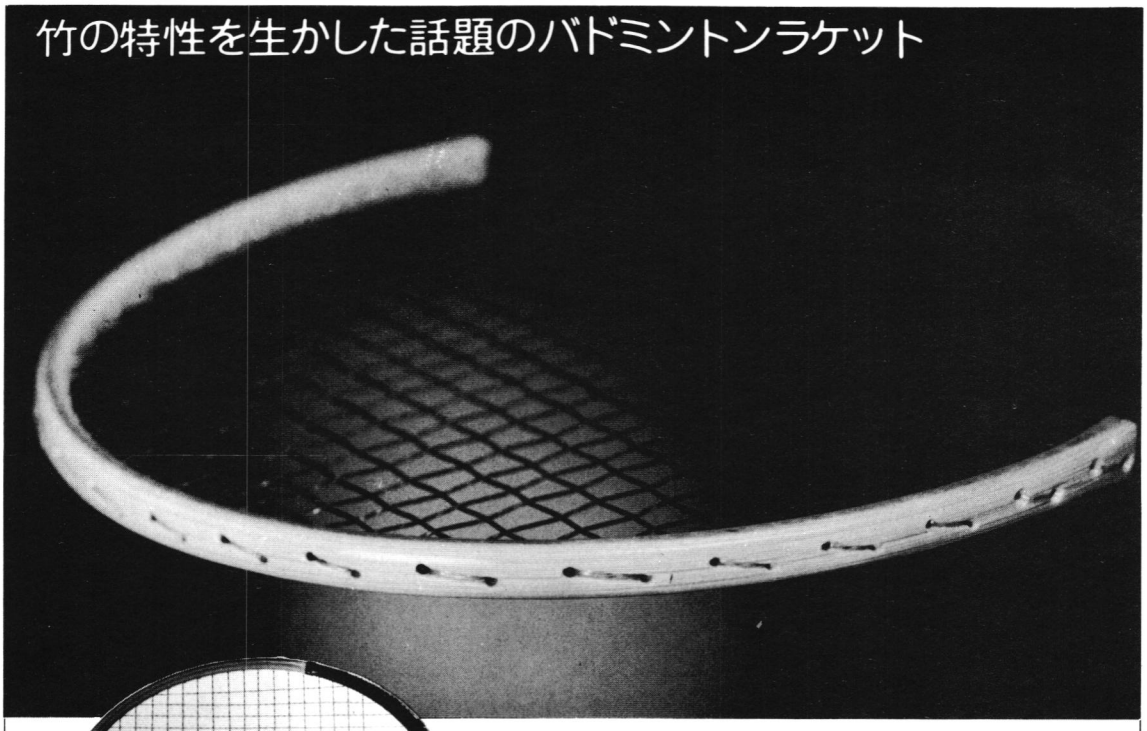
昭和52年12月15日発行
編集人／赤星　三樹
発行人／秦　浩

©1977　無断転載を禁ず

発行所・日本バドミントン協会
郵便番号 150 東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館
電話　03－467－3111(代表) 内線351
振替　東京5－9525(バドミントン界編集部)

# うなる打球/格調のバンブー

竹の特性を生かした話題のバドミントンラケット



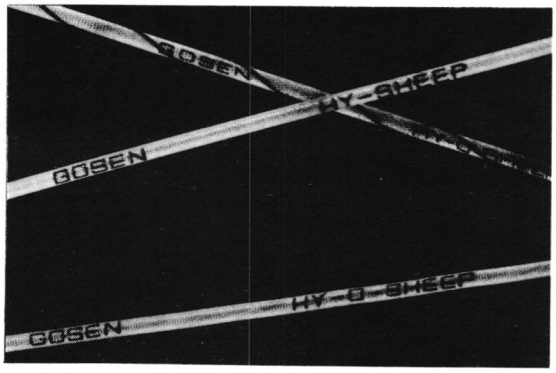


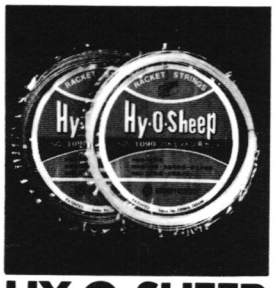
## Hy-Thomas

No. B45 ハイ・トーマス(バンブー) ￥4,500　★最高級選手用ロングテーパーシャフト フレーム・カバー付



## 最後まで勝ち抜くもの/品質保証のビッグなガット

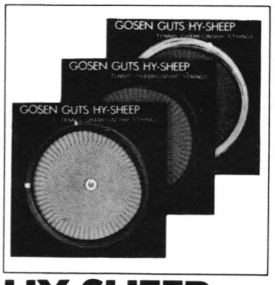



**HY-O-SHEEP**

No. 1090/1091 ハイ・オー・シープ ￥600

油入特殊ガット最高級品選手用(アンバー・青スパイラル



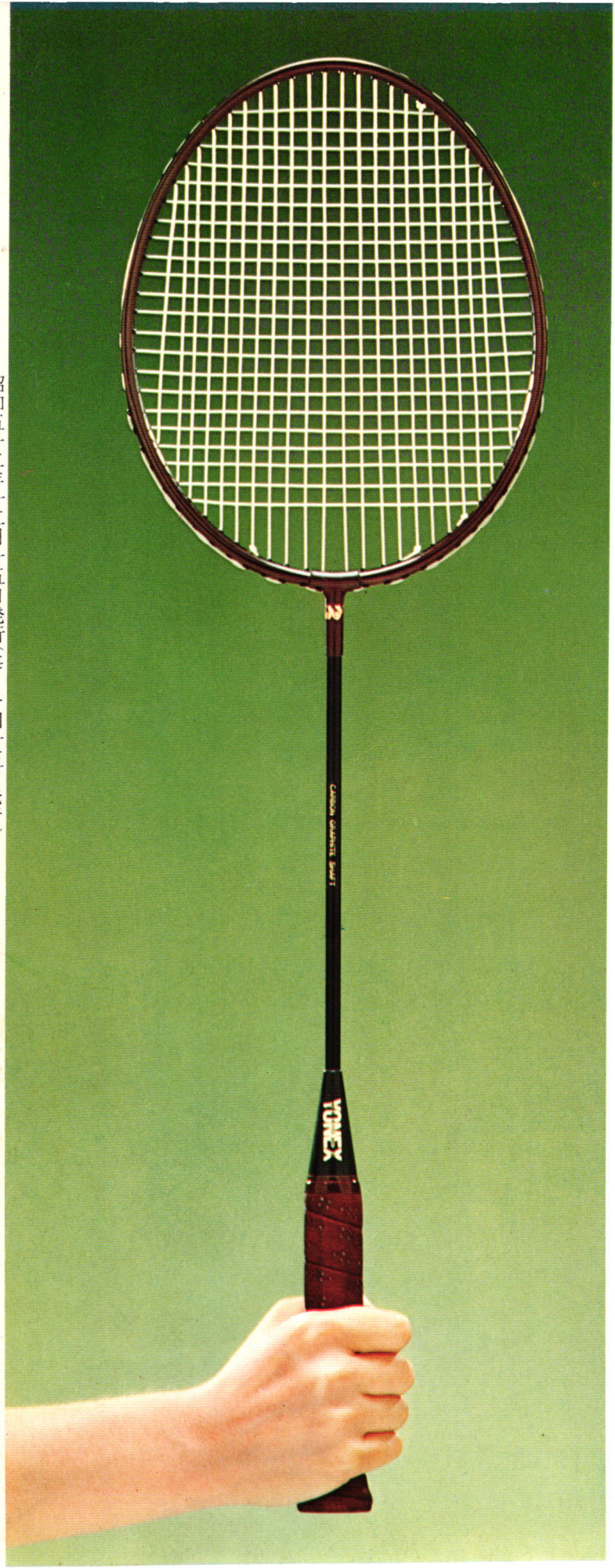

**HY-SHEEP**

No. 1060 ハイ・シープ　￥400

選手用(アンバー・赤・青)

株式会社ゴーセン
■本　　社●大阪市東区豊後町4　☎(06)942-5816 代
■東 京 支 店●東京都台東区蔵前4-14-2　☎(03)862-6576 代
■福岡営業所●福岡市中央区薬院1-4-8　☎(092)712-5247 代

月刊「バドミントン界」2月号　昭和五十二年十二月十五日発行（毎月一回十五日発行）　東京都渋谷区神南一ノ一ノ




# 目下の話題はカーボネックスセブン。

強烈な反発力が評判のカーボネックス３につづきカーボン・シャフトの先端に、特殊アルミ合金のフレームを持つ新鋭ラケット、カーボネックス7の登場です。カーボン・シャフトの強力なバネ力と、特殊アルミ合金フレームとの力バランスが、すさまじいスマッシュを生みだします。スピードは抜群。そのうえ、スイート・スポットが広いので、シャトルを確実にとらえます。世界の一流プレイヤー達が、力から技へそしてまた力へと移ってきた現在、カーボネックス７はまさに時代への解答。すでにあるウッド・フレームとカーボンシャフトのカーボネックス３とともに、あなたの武器にしてください。

●日本初のこと――このラケットにはRとXの表示があります。Rはレギュラーでスナップ打法用。Xはエキスパートでフルスイング打法用です。

**B-8300 Carbonex7**

●カーボネックス セブン……￥7,700

YONEX